朝鮮画報

1962年９月26日　第３種郵便物認可第33巻第８号
通巻396号1994年９月１日発行(毎月１回５日発行)

THE KOREAN PICTORIAL 1994月刊

金日成主席逝去特集号

「以民為天」貫いた生涯、20世紀史に輝く業績



혁명하는 사람은
언제나 인민을 믿고
인민에 의거하면 백전
승리하지만 인민의
버림을 받게 되면 백전
패한다는 진리를 삶과
투쟁의 좌우명으로
삼아야 한다.

김일성

革命家はつねに、人民を信頼し人民に依拠すれば百戦百勝するが、人民に見捨てられれば百戦百敗するという真理を生と闘争の座右の銘とすべきである。

金 日 成





党、国家幹部とともに金日成主席の霊前に弔意を表す金正日書記(7月11日)

人民のためにすべてを捧げた民族の太陽逝く



花々のなか、丁重に安置された主席の霊柩(錦繍山議事堂)



すぐれた領袖失い朝鮮全土は
深い悲しみにつつまれた

「全党員と人民に告ぐ」

われわれ全労働者階級と協同農民、人民軍将兵、知識人と青年学生。

朝鮮労働党中央委員会と朝鮮労働党中央軍事委員会、朝鮮民主主義人民共和国国防委員会と中央人民委員会、政務院は、朝鮮労働党中央委員会総書記であり、朝鮮民主主義人民共和国主席の金日成同志が一九九四年七月八日二時に急病で逝去したことを、最も悲痛な心情で全国、全人民に知らせる。

人民大衆の自主偉業のために一生を捧げ、生の最後の瞬間まで祖国の隆盛繁栄と人民の幸福のために、国の統一と世界の自主化のために休むことなく精力的に活動してきた主席が、あまりにも惜しいことにわれわれのそばを離れた。

われわれの社会主義偉業が度重なる難関と試練を克服し勝利し続けており、朝鮮革命と祖国統一の前途に新しい局面が開かれている歴史的なこの時に、わが党と人民の偉大な領袖であり、慈父である金日成同志が予期せず逝去したことは、わが党と革命にとって最大の損失であり、全民族にとって最も大きな悲しみである。

金日成同志は代々愛国的で革命的な家庭で誕生し、最も困難な民族受難の時期に祖国光復の大きな志を育て、偉大な革命家に成長した。

金日成同志は幼くして革命の道に入り、八〇の高齢に達する長きにわたってわが党と人民を賢明に指導し、朝鮮民族史と人類の歴史に永遠に輝く偉大な業績を積み重ねた。

金日成同志はチュチェ思想を創始して輝かしく具現し、革命と建設を勝利へと導いてきた傑出した思想理論家であり、指導の天才であり、人民をかぎりなく愛し人民のためにすべてを捧げた偉大な人民の領袖であった。

金日成同志は偉人が備えることのできるすべての品格と資質を最も崇高な高さで体現し、朝鮮人民と世界人民が一斉に仰ぎ慕い、かぎりなく尊敬する偉人の中の偉人であった。

絶世の愛国者であり伝説的英雄である金日成同志は、日帝植民地統治の最も暗澹たる時期に朝鮮革命の主体的路線を明らかにし、血の海、火の海を踏みわけ二〇年にわたる抗日革命闘争を勝利へと組織指導することで祖国光復の歴史的偉業を成就させ、民族再生の道を切り開き、わが党と革命の礎である栄えある革命伝統を築いた。

金日成同志は解放後、複雑な情勢下でチュチェの建党、建国、建軍路線を提示して輝かしく実現し、朝鮮革命の参謀部である朝鮮労働党を創建し、朝鮮人民の栄えある祖国、朝鮮民主主義人民共和国をうちたて、朝鮮人民革命軍の伝統を引き継いだ人民軍隊を不敗の革命武力に育てた。

偉大な軍事戦略家であり、百戦百勝の鋼鉄の名将である金日成同志は、苛烈で凄絶な祖国解放戦争の重荷を全身に担い、軍隊と人民を戦争勝利のための英雄的闘いへと奮い立たせ、帝国主義連合勢力の武力侵攻を退け、祖国の独立と栄誉を輝かしく守った。

革命の偉大な領袖であり、創造と建設の英才である金日成同志は前人未踏の道を切り開き、わが党と人民を賢明に指導し、朝鮮式の独創的な革命路線と政策によって民主主義革命と社会主義革命を成果裏に遂行して無から有を創造し、社会

主義建設を力強く推進して、世紀的な落伍と貧困が支配していた朝鮮を自主、自立、自衛の社会主義強国に変え、朝鮮人民を最も尊厳あり誇り高い幸福な人民にし、社会主義の世界的模範を創造した。

民族の太陽であり祖国統一の救いの星である金日成同志は、国の統一を民族至上の課題に掲げて、祖国の自主的平和統一のための最も正当な原則と合理的な方法を明らかにし、南北、海外の全朝鮮同胞を民族的団結と統一偉業実現に奮い立たせることで、祖国統一の前途に明るい展望を開いた。

人類の英才であり国際共産主義運動の卓越した指導者である金日成同志は、社会主義の旗、反帝自主の旗を高く掲げ、社会主義偉業の勝利と非同盟運動の強化発展のため、世界平和と諸人民間の親善団結のために精力的な活動を繰り広げることで、共和国の国際的地位と権威を高め、人類解放偉業に不滅の貢献をした。

慈愛溢れる人民の父である金日成同志は、革命活動の全期間にわたって「以民為天」を座右の銘とし、つねに人民とともにあって人民と苦楽をともにし、人民の自由と幸福のために険しい山々を乗り越え、数千数万里の現地指導の道を歩き、数えきれない労苦を経てきた。

金日成同志の全生涯は、ひたすら祖国と革命のために、労働者階級と人民のためにあらゆる艱難辛苦を経て、厳しい革命の暴風雨を貫いて来た偉大な革命家の最も輝ける一生であり、天才的英知と卓越した指導力、不屈の意志で禍を福に、逆境を順境に転換させ、勝利の道を歩み続けてきた偉大な指導者の最も栄えある一生であった。

金日成同志は、その生涯を賭けた祖国統一とチュチェの革命偉業の完成を見ることなく惜しくも逝去したが、朝鮮革命が引き続き勝利への道を力強く前進して行くための最も強力な武器と磐石の土台を築いてくれた。

今日、わが革命の陣頭にはチュチェの革命偉業の偉大な継承者であり、わが党と人民の卓越した指導者であり革命武力の最高司令官である金正日同志が立っている。

わが党の洗練された指導は、金日成同志が開拓し導いてきたチュチェの革命偉業を代を継いで輝かしく継承完成させることのできる確固とした保証となる。

われわれには党の周りに一心団結した全人民の尽きない力と必勝不敗の革命武力があり、最も優れた社会主義制度と強力な自立的民族経済がある。

わが党はチュチェ思想の革命的旗を高く掲げて、金日成同志が作り上げたチュチェの革命伝統と不滅の革命業績を確固と擁護固守し、金日成同志の革命偉業を最後まで完成させて行くだろう。

われわれは今日の悲しみを力と勇気に変え、革命と建設のすべての分野において新たな一大高揚を起こさなければならない。

全党員と人民は、わが党の指導を忠誠で受け止め、党の周りにより固く団結し、われわれの一心団結の威力を不敗のものにしっかりと固めなければならない。

われわれは金日成同志がうちたてた人民大衆中心の朝鮮式社会主義を堅く守ってより輝かせ、社会主義偉業を勝利をもって完成させなければならない。

われわれは金日成同志が提示した自主、平和統一、民族大団結の三大原則と「祖国統一のための全民族大団結一〇大綱領」を高く戴き、民族の団結した力で祖国の自主的平和統一を必ず実現させなければならない。

わが党と人民は金日成同志が明らかにした自主、平和、親善の理念に基づき、自主性を擁護する世界各国の人民との親善団結を強化するために積極的に努力し、自主的で平和な新しい世界を建設するために力強くたたかうだろう。

金日成同志の心臓がたとえ鼓動を止めても、彼の偉大な尊名と慈愛溢れる姿はわが人民の心の中に永遠に刻まれ、その偉大な革命業績は歴史とともに千万年の長きにわたり輝き続けるだろう。

朝鮮労働党中央委員会
朝鮮労働党中央軍事委員会
朝鮮民主主義人民共和国国防委員会
朝鮮民主主義人民共和国中央人民委員会
朝鮮民主主義人民共和国政務院

国家葬儀委員会名簿

朝鮮労働党中央委員会、朝鮮労働党中央軍事委員会、朝鮮民主主義人民共和国国防委員会、朝鮮民主主義人民共和国中央人民委員会、朝鮮民主主義人民共和国政務院が発表した金日成主席の国家葬儀委員会メンバーは次のとおり。

金正日

呉振宇　姜成山　李鐘玉　朴成哲　金英柱　金炳植　金永南　崔光　桂応泰　全秉浩　韓成龍　徐允錫　金喆万　崔泰福　崔永林　洪成南　姜希源　楊亨燮　洪石亨　延亨黙　李善実

金哲洙　金己男　金国泰　黄長燁　金仲麟　徐寛熙　金容淳　金渙　金福信　金昌周　金允赫　張徹　孔鎮泰　尹基福　朴南基　全文燮　柳美英　玄峻極　元東球　李河逸　金益鉉

李昌善　呉克烈　権煕京　金敬姫　康石崇　蔡希正　盧明根　全河哲　金斗南　白鶴林　池昌益　李勇武　李知賛　崔福延　金昌浩　李錫　朴容錫　李鉄奉　鄭浚基　黄順姫　申相均

鄭夏哲　金基龍　姜賢洙　朴勝日　金学奉　白範寿　崔文善　林亨九　李根模　玄哲圭　李吉松　林秀萬　李乙雪　金鳳律　金光鎮　金正角　呉龍訪　金明国　元応熙　金格植　張成雨

全珍秀　朱祥誠　金永春　趙明禄　金鎰喆　白昌植　金龍運　姜東潤　朴基瑞　韓仁述　金夏圭　南相洛　玄哲海　李奉遠　金炳律　朱成一　崔龍海　崔成淑　金聖愛　白仁俊　李夢虎

文成述　閻基淳　李勇哲　張成沢　金時学　金忠一　朴松奉　姜寛柱　金栄彩　洪成龍　趙淳珀　兪貞淑　全熙正　金栄龍　姜錫柱　孫成弼　朱昌駿　金国勲　趙世雄　車容鎮　朱奎昌

金允相　金会一　崔満顕　廉泰俊　廉在萬　卞彰福　崔仁徳　太炳烈　朱吉本　尹浩錫　洪時学　崔珍星　金達玄　鄭喆　許極成　李斗益　李成大　金応祥　金元振　金利龍　郭範基

金世栄　朴源鉉　金学燮　金成求　呉成烈　崔基龍　李在潤　尹基貞　金守学　李龍燮　朴明哲　蔡圭彬　鄭成沢　金静淑　李秉郁　鄭昌烈　金大植　全在善　呂春錫　金成圭　鄭鎬均

呂炳南　李元載　朱勝南　元明均　白相鎬　金鳳汶　李泰哲　朴載慶　林東玉　李奉益　金中浹　蔡亨植　林相鍾　李成福　李和善　洪仁範　金哲明　吉在京　朴奉珠　金裕淳　金在奉

朴重国　高正植　姜順姫　李良淑　張国賛　崔尚悦　白世允　玉奉麟　金龍淵　鄭松男　李英均　任録在　呂鸞九　申珍順　金洛姫　趙昌徳　許淳　黄錫奎　朴守範　金相鎬　申泰録

金亨黙　李遠寛　朴永賛　金柱浩　崔明哲　李允恰　任奉龍　金允宇　金炳八　朴英植　許敏善　崔炳浩　韓奎八　崔賢基　李鉉浩　白銀順　全英勲　朴時亨　李学燮　金光洙　李大世

李東成　金応三　白雪姫　郭英浩　李洛彬　金応哲　尹瑞　金世潤　申京植　鄭斗煥　韓英鎬　韓允昌　韓泰容　孟泰浩　宋錦淳　金千弼　崔治善　金泰極　崔希正　金平吉　李春錫

金吉演　趙允煕　李白河　崔源益　鄭文山　任正相　李鎬赫　李鍾珠　崔鍾健　朴勇南　金成煥　金治徳　申日南　金錫亨　李志洙　朴官五　崔光烈　全周南　金炳勲　康永燮

朝鮮労働党中央委員会総書記であり朝鮮民主主義人民共和国主席である金日成同志の疾病と死亡原因に関する医学的結論書

金日成同志は心臓血管の動脈硬化症のため治療を受けていた。

度重なる精神的過労により一九九四年七月七日、重度の心筋梗塞が発生し心臓ショックが併発した。

即時にあらゆる治療をおこなったにもかかわらず、心臓ショックが重なり、一九九四年七月八日二時に死亡した。

一九九四年七月九日におこなった病理解剖検査で、疾病の診断が完全に確定された。



朝鮮画報 金日成主席逝去特集号 目次 KOREANPICTORIAL

1994

「以民為天」貫いた生涯、二〇世紀史に輝く業績

金日成主席逝去

金日成主席の逝去という信じがたい訃報に、朝鮮全土はいい知れぬ悲しみにつつまれた。主席の霊柩が安置された錦繍山議事堂と、主席の銅像が建つ平壌・万寿台の丘には、訃報に接した市民はじめ全国各地の人民が連日訪れ主席の逝去を悼み、永訣式では数百万群衆が沿道を埋めつくし、敬愛してやまない民族の太陽であり、人民のかけがえのない慈父である主席との最後の別れを惜しんだ。



主席に最後の別れをする平壌市民





平壌市内をいく主席の霊柩車(19日)





永訣式に参加する金正日書記(19日)



主席の霊柩に弔意を表わす駐朝外交館員



深い悲しみのなか
厳かに追悼の儀式

金日成主席の逝去にともない、朝鮮労働党中央委員会、中央軍事委員会、国防委員会、中央人民委員会、政務院は「全党員と人民に告ぐ」で、全人民に主席の逝去を知らせるとともに、国家葬儀委員会を構成、平壌をはじめ全国各地で主席の逝去を追悼する儀式を深い悲しみのなかで厳かに執りおこなった。



主席の銅像の前で哀悼の意を表わす金日成総合大学の教職員と学生



訃報に接し涙にくれる平壌市民



主席の霊前に弔意を表する
朝鮮総聯中央の韓徳銖議長

金正日書記、霊前に弔意

朝鮮総聯代表と海外同胞も市民、人民軍将兵とともに弔問

弔意の儀式

金日成主席の霊前に弔意を表す儀式が七月一一日、平壌（ピョンヤン）の錦繍山（クムスサン）議事堂で厳かにおこなわれた。

儀式会場の中央には、赤い旗で被われた主席の霊柩が花々のなかに丁重に安置され、主席の多大な業績を称え朝鮮人民が捧げた共和国英雄、労働英雄はじめ多くの勲章が置かれていた。

荘厳な追悼曲が流れるなか、朝鮮労働党中央委員会委員長で朝鮮人民軍最高司令官の金正日書記が、党、国家の幹部とともに主席の霊柩を訪ね、最も悲痛な心情で黙禱し、哀悼の意を表した。儀式には、党中央委政治局常務委員の呉振宇人民武力部長、党中央委政治局常務委員の姜成山総理、同李鐘玉、朴成哲、金英柱の各副主席、朝鮮社会民主党委員長の金炳植副主席など、党と国家の幹部と国家葬儀委員が参席した。また、祖国に滞在中の朝鮮総聯中央の韓徳銖議長も同席した。

金正日書記は、一三、一四日と一七日にも弔問に訪れた朝鮮人民軍将兵、平壌市民、海外在住同胞とともに再び霊前を訪れ、深い哀悼の意を表した。

弔問の儀式に参加した代表のなかには、在米の孫元泰、徐順玉、李在徳、尚鉞先生の遺家族、プン・ジョンウン先生の遺家族、張蔚民の各氏など抗日革命闘争縁故者、また、海外在住朝鮮同胞である、朝鮮総聯中



主席の逝去を悼む平壌市民





深い哀悼の意を表わす軍人たち

央の許宗萬責任副議長と朝鮮総聯弔問代表団、汎民連の林民植海外本部事務局長はじめ各国汎民連関係者、在米の鮮于学源博士、国際高麗朝鮮人統一連合会のカン・イル委員長、国際跆拳道連盟の崔泓熙総裁、在米ジャーナリストの文明子女史、ドイツ・ミュンスター総合大学の宋ドウリュル教授他の姿が見えた。

弔問客らは、霊前に弔花を供え黙禱をささげた後、金正日書記に深い哀悼の意を表し、今日の悲しみを乗りこえ、金正日書記を戴き、金日成主席の開拓したチュチェ偉業を代を継いで完成させる決意を表明した。

金正日書記は、弔意に深い謝意を表し、彼らと温かい談話を交わした。

なお、錦繡山議事堂に安置された主席の霊柩には、全国から多くの人民が訪れ、つつしんで弔意を表した。その列は終日、とどまることを知らなかった。

永訣式

主席に最後の別れを告げる永訣式が一九日、錦繡山議事堂で厳かに執りおこなわれた。

永訣式には、金正日書記が国家葬儀委員とともに参加した。また、朝鮮総聯中央韓徳銖議長と許宗萬責任副議長はじめ、海外同胞と抗日革命闘争縁故者も同席した。

朝鮮人民軍陸海空軍名誉儀仗隊と軍旗縦隊が整列するなか、主席の棺を乗せた霊柩車に陸海空軍名誉儀仗



錦繍山議事堂でおこなわれた永訣式

数百万市民が最後の別れ

慟哭し泣きくずれる群衆

隊長が永訣報告をおこない、「愛国歌」吹奏の後、敬礼する軍旗縦隊と陸海空儀仗隊の前を主席の霊柩車が静かに行進した。

続いて主席の霊柩車は、金正日書記と国家葬儀委員にともなわれて平壌市内にむかった。

党旗に被われ花につつまれた主席の棺を乗せた霊柩車は、龍興街から革新街、統一街、金日成広場、凱旋門など、平壌の目抜き通りを結ぶ約四〇キロの沿道を行進した。



主席の逝去を悲しむ学生少年たち

平壌の沿道では、数百万の市民が、敬愛してやまない金日成主席に涙ながらに最後の別れを告げた。

霊柩車が永訣行進を終え、霊柩の安置場所に到着した後永訣儀式がおこなわれ、二四発の弔砲と弔銃が放たれた。

金日成主席と最後の別れを告げるこの日、平壌市は計り知れない深い悲しみにつつまれていた。主席の霊柩車の通る各目抜き通りと広場は、



平壌の目抜き通りをいく主席の霊柩車





深い悲しみのなか主席の霊柩車を迎える人々(20日、金日成広場)

一目主席の霊柩に別れを告げようとする数百万の市民で埋まり、沿道は涙と慟哭が渦巻いた。

メーンストリートの各所には、「偉大な金日成同志を最も敬虔な思いで追慕します」、「敬愛する金日成同志の革命業績はとこしえに輝く」、「敬愛する金日成同志は人民の心の中に永遠に生きる」、「今日の悲しみを力と勇気にかえて革命と建設で新たな高揚をおこそう」などのスローガンが掲げられていた。



主席の霊柩車を号泣しながら見送る平壌市民

定刻八時に錦繍山議事堂をでた主席の霊柩車は、モーターバイクの護衛を受け、吹奏楽隊を先頭に、党中央委員会、党中央軍事委員会、抗日革命闘士一同の弔花、主席の遺影、党、国家、革命武力の最高指導者である金正日書記名義の弔花車、そして国家葬儀委員車を連ね、市内を静かに行進した。

沿道では、主席の霊柩車が姿を現わすと人波がたち、主席の名を叫ん

今日の悲しみを乗りこえ、金正日書記の周りに一心団結誓う


主席と永訣する中央追悼大会主席壇(20日)

でその場に泣き崩れる人、「永訣がなんですか。この地、朝鮮があり、人民がいるのになぜ逝くんですか？ 逝かないで」と号泣する声、胸を打ち、地を叩いて慟哭する群衆など、主席の逝去を悼む市民の悲しみの深さをみせつけた。

この日、朝鮮全国の党、政権・行政機関、勤労団体機関、朝鮮人民軍、人民警備隊でも主席の追悼式がおこなわれた。

追悼大会

二〇日、金日成広場は未曽有の人人で埋め尽くされた。金日成広場はもちろん、そこに通ずる大道路、金日成スタジアム、凱旋門広場、戦勝広場、駅前広場、チュチェ思想塔広場など、市内の広場は数百万の市民で充ちあふれた。

悲痛な空気が漂うなか、金正日書記が党、国家の指導幹部、国家葬儀委員とともに出席した。また、朝鮮総聯をはじめとする海外同胞組織と代表、抗日革命闘士縁故者、元朝鮮人民軍従軍記者・李仁模さんらが同席した。

深い黙禱がささげられた後、金永南副総理が追悼の辞をのべ、「われわれの偉大な心臓は鼓動を止め、わが人民は生命の父を失った。…主席の明るい風貌に二度と接することのできないわが人民の悲しみは天に達し、山河草木も悲憤にふるえ、光を失った」と、悲痛な声でのべたとき、広場は号泣とすすり泣きにつつまれた。

追悼の辞は、わずか一〇代で革命の道に入り、八〇の高齢にいたるまで、主席が積み上げた業績にふれ、主席がかくも願った祖国統一とチュチェの革命偉業の完成を見ずして逝去されたことはあまりに胸痛むことだが、われわれには「チュチェの革命偉業を代を継いで継承する指導の継承問題が立派に解決されている」と強調、この問題の解決こそ、「主席が朝鮮革命の未来のために残した最も特出した功績である」とのべた。

そして、朝鮮革命の陣頭には、偉大な継承者である金正日書記が立っており、書記さえいればわれわれはいかなる困難も乗りこえ勝利すると指摘、われわれは今日の悲しみを力と勇気にかえ、「全党、全国、全軍に金正日同志を首班とする党中央の指導体制を確立し、金正日同志の指導にしたがって勝利の信念も固く主席の開拓した革命偉業を完成していかねばならない」と力強くのべた。

追悼大会では、平壌火力発電連合企業所の労働英雄趙栄基さん、平壌市寺洞（サドン）区域将泉（チャンチョン）協同農場の労働英雄金明延管理委員長、朝鮮人民軍の金光鎮次帥、朝鮮総聯中央の許宗萬責任副議長が演説した。

演説の終了後、弔砲がとどろき、定刻一二時を期して大会参加者はじめ、全国の人民が三分間黙禱し、機関車、船舶などが弔笛を鳴らし、弔意を表わした。

のべ二億一千余万人が弔意

金日成主席逝去の訃報は、朝鮮人民に大きな衝撃と悲しみを与えた。

悲報から三〇分後には、平壌の万寿台の丘に早くも多くの市民が駆けつけ、金日成主席の銅像の前で号泣する姿が見え、翌九日にはその数は三〇万人に達した。その日の夜はしのつく雨にみまわれたが、万寿台の丘をはじめ、万景台の主席の生家、主席の革命活動のゆかりの地を訪ねる人波はあとを絶たず、夜が更けるにしたがって更にその数を増した。

女性たちの髪には、弔意を表わす白いリボンが結ばれ、公務員はじめ労働者、農民、学生は喪服をまとった。こうして哀悼期間に、のべ二億一千二〇〇万人が主席の銅像、ゆかりの地を訪ね悲しみの弔意を表した。

また、主席の肖像画の前に朝鮮民族の風習にのっとって、一日三食の食膳を供え哀悼の意を表わす家庭も少なくなかった。

主席の逝去を悼むこうした人民の切実な心情と要求を受け、国家葬儀委員会は追悼行事の日程を三日間延期するという、前例のない処置を講じねばならなかった。

弔意に駆けつけた人々は、「主席は逝ったが、私たちの心の中に生きている」と口々に語り、「主席の遺訓どおり、金正日書記の周りに一心団結しチュチェの革命偉業を完成する」と決意を新たにしていた。


金日成広場を埋めた数百万の平壌市民(20日)



金日成主席を追悼する在日本朝鮮人中央追悼式がしめやかにおこなわれた

「主席は私たちの心の中に生き続ける」

在日朝鮮人涙の中で中央追悼式



金日成主席の逝去を悼み悲痛な思いで三分間黙禱し冥福を祈った

七月一七日、東京・北区の朝鮮文化会館には、三〇度を越える猛暑をおして、東京をはじめ神奈川、千葉、埼玉、西東京など関東一円に住む在日朝鮮人同胞が続々とつめかけた。

信じがたい金日成主席の訃報から一週間。同胞たちの表情には、民族の偉大な指導者を失った衝撃と悲しみが深く刻まれていた。

追悼会場の正面には金日成主席の肖像画が安置され、その周囲は在日同胞の敬慕と哀悼の思いを込めた美しい生花で埋め尽くされた。

午前一一時、「金日成将軍の歌」が厳かに奏でられ、在日本朝鮮人中央追悼式がとりおこなわれた。

追悼式には在日本朝鮮人総聯合会中央・李珍珪第一副議長、朴在魯副議長兼朝鮮新報社社長、徐萬述、権淳徽、李成雨、白漢基の各副議長、

裵秉斗副議長兼総聯東京都本部委員長、金守埴事務総局長をはじめ各局長、中央団体、事業体などの責任者らで構成された追悼委員会の委員ら（一一二人）が参席した。

増え続けた同胞の数は一万に達し、会場に入りきれなかった人々は炎天下に立ち尽くして、ともに主席の冥福を祈って黙祷を捧げた。会場のあちこちで嗚咽の声がもれ、こらえ切れず涙が頬を伝った。

追悼委員会委員長である李珍珪第一副議長が、追悼の辞を述べた。

主席を失ったことは、祖国と人民、朝鮮総聯と在日朝鮮人の最大の悲しみであり、痛みであり、現時代と全世界の進歩的人民の最も大きな損失である。主席の生涯は、祖国の自主権と民族的繁栄、社会主義建設、人民の幸福のためにすべてを捧げた生涯であり、主席がいたからこそ、在日朝鮮人が異国の地で、民族の尊厳と栄誉を世界に誇ることができた。主席を亡くした悲しみを、新たな力と勇気に変え、金正日書記が導く革命偉業に沿って、総聯の愛国事業で大きな発展をもたらそう。主席の偉大な革命業績は、千年、万年が過ぎようと、わが民族史と人類史に不滅の光を放つだろう――。

追悼曲の調べが鳴り響き、献花が始まった。同胞にとって、敬愛してやまぬ主席との永訣の瞬間である。

「アイゴー、金日成主席、なぜ、こんなに急に逝ってしまわれたのです」

「私の心臓をさしあげたかった」

嗚咽の声に混じって、悲痛な慟哭の叫びが響く。胸をかきむしる老人、乳飲み子を抱いた主婦、その場に泣き崩れる婦人、泣きじゃくるチマ・チョゴリ姿の女学生たち。泣きはらした目にさらにあふれる涙を浮かべて、同胞たちは赤いカーネーションを主席の肖像に捧げ、深々と頭を下げた。

大人たちに混じり、年端のいかない子供たちも神妙におじぎを捧げる。

「この子が学校で歴史を学び、主席



追悼の辞を追悼委員会委員長の朝鮮総聯李珍珪第一副議長が述べた



朝鮮総聯李珍珪第一副議長は各副議長とともに献花した



追悼式には２万余人の在日朝鮮人が参列した







在りし日の主席を偲び献花する1世から4世5世に至る在日同胞の列は午後5時近くまで絶えることがなかった





のことを勉強するとき、もう主席はこの世にいらっしゃらないと思うと、さびしくてたまらない。今日は、これが民族の太陽金日成主席だよって、教えるために連れてきました」。鄭玉珠さん(二七)は、そういって幼い子供を抱き寄せた。

強制連行で日本に連れてこられたという鄭雲模さん（七四）は、苛酷な植民地支配にあえぐ中で、金日成将軍の名前に民族独立の希望を見いだした。「亡国の民であった朝鮮人に、主席は民族再生の光を与えてくださった。主席が逝去されたなんて信じられない。主席は私の心の中に今も生きておられる」と、流れる涙をぬぐいながら語った。

横浜からきた崔賢吉さん（五七）は、祖国から毎年送られてくる奨学金によって学んだ奨学生だった。祖国解放戦争によって祖国が廃墟と化したとき、切り詰めた国家予算の中から、在日同胞の民族教育のために、主席は多額の教育援助費と奨学金を送り続けた。「この恩は、何にもかえることはできません。当時日本にいる朝鮮人は差別と弾圧の対象でした。そんな私たちを主席が解放し、誇りある朝鮮民族の一員として蘇らせてくれたのです。そんな主席が祖国統一の日を見ずに逝かれたことが、悔やまれてなりません」

献花を終え、呆然と立ち尽くしていた李ユスンさん(四三)も「日本で生まれ育ちながらも朝鮮人として生きていられるのは、金日成主席の温かい慈しみと愛情があったから。主席



総聯宮城県本部追悼式







総聯愛知・中村支部追悼式



総聯山口県本部追悼式



総聯大阪府本部追悼式

は私の人生において心の支えでした。三年前、主席とともに記念撮影する栄誉に浴したのですが、主席と同じ時代に生きることができたことを幸せに思います。これからは金正日書記を心の柱に愛国活動を続けていきたい」と目頭を押さえた。

追悼式は午後五時まで続けられたが、同胞の波はとどまることを知らず、約二万人の人々が会場に訪れた。

同じ日、日本各地の総聯本部、支部でも追悼式がおこなわれ、同胞たちが金日成主席の冥福を祈り、最後の別れを告げた。



朝鮮総聯中央本部でおこなわれた永訣式（７月19日）



金日成主席を追悼し、深い哀悼の意を表した（朝鮮出版会館、７月20日）

日本の各界人士も哀悼の意を表す

総聯中央会館に1000余人が弔問



金日成主席の逝去を悼み朝鮮総聯中央本部に弔旗が掲げられた

金日成主席の祭壇を祭った在日本朝鮮人総聯合会中央会館（東京・千代田区）には、七月一二～一四日、日本の政財界をはじめとする各界人士と、中国、キューバ、ベトナム、ラオス、イランの駐日大使など二六カ国の外交官一〇〇〇余人が弔問に訪れた。

訪れた弔問客らは、金日成主席の肖像画の前に赤いカーネーションを献花し、哀悼の意を表した。日本社会党の久保亘書記長、土井たか子、田辺誠、石橋政嗣、山花貞夫氏ら元・前委員長、野坂浩賢建設相、山口鶴男総務庁長官、田英夫参議院議員、清水澄子参議院議員、自由民主党の小渕恵三副総裁、野中広務自治相、池田行彦元防衛庁長官、山崎拓同筆頭副幹事長、新党さきがけの鳩山由紀夫代表幹事、新生党の小沢一郎代表幹事、公明党の石田幸四郎委員長、日本新党の江田五月副代表、民社党の神田厚前防衛庁長官、自由党の太田誠一代表幹事、スポーツ平和党の猪木寛至党首、海部俊樹元首相、鯨岡兵輔衆議院副議長、赤桐操参議院副議長、長洲一二神奈川県知事、畑和前埼玉県知事、鈴木二郎（都立大名誉教授）、針生誠吉（同）、江上波夫（東大名誉教授）、武者小路公秀（元国連大副学長）、三木睦子（元首相夫人）、美濃部時子（元都知事夫人）、藤田英男（元日本弁護士連合会会長）、久保田博二（写真家）、向井正剛（日本オリンピック委員会理事）、井上周八（チュチェ思想国際研究所理事長）、林亮勝（日本朝鮮文化交流協会理事長）、津和慶子（日本婦人会議議長）、上野豊（日本商工会議所副会頭）、小林與三次（日本テレビ放送網会長）、犬飼康彦（共同通信社社長）、小池唯夫（毎日新聞社副社長）、安江良介（岩波書店社長）の各氏をはじめとする各界人士らが訪れた。

久保書記長は「主席の偉大な指導力を直接感じていただけに、突然の逝去に驚いている。主席が生涯念願されていた朝鮮の自主的平和統一が一日も早く実現するよう努力する」と語り、海部元首相は「主席の冥福を祈る。国交正常化交渉をスタートさせた責任もあり、その実現がアジアの平和にもつながると考えている」と語った。

また、土井衆院議長は「主席とお会いしたのは四年前だった。人のなしたことは必ず人の努力で解決できる、といわれた言葉が心に残る」と、悲痛な表情で主席を偲んだ。

安江岩波書店社長は、「主席とは五回お会いしたが、八五年には一二時間近くもご一緒した。率直に語り、若若しく、闊達で、時間を忘れるほど深く魅せられたものだった」と主席の死を悼みながら、「カーター元大統領と会い、その曙光が見えた瞬間に逝かれたが、主席が敷かれた『統一と民族の自主性』という一貫した原則に沿って問題が解決されていくと思う」と、今後の朝鮮問題への期待を示した。

このほか日本各地の朝鮮総聯本部や支部にも多くの日本人士、市民らが弔問に訪れ、金日成主席の逝去への哀悼の意を表した。



公明党・石田幸四郎委員長・衆議院議員



自民党・小渕恵三副総裁・衆議院議員



社会党・田辺誠元委員長・衆議院議員、山花貞夫前委員長・衆議院議員、久保亘書記長・参議院議員



新党さきがけ・鳩山由紀夫
代表幹事・衆議院議員



尾上健一チュチェ思想
国際研究所事務局長

金日成主席の逝去に際し、日本の政財界をはじめとする各界人士、駐日大使をはじめ26ヶ国の外交官らが朝鮮総聯中央本部を弔問におとずれ深い哀悼の意を表した。



岩井章朝鮮統一支持日本委員会会長



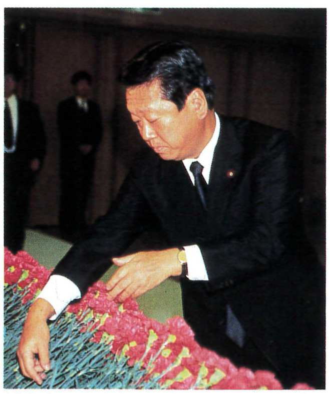
スポーツ平和党・猪木寛至参議院議員



海部俊樹元総理大臣・衆議院議員



床井茂弁護士



新生党・小沢一郎代表幹事・衆議院議員



日本新党・江田五月副代表・衆議院議員



土井たか子衆議院議長・
元社会党委員長



松平康隆日本バレーボール協会会長



橋本恵夫日本商工会議所理事



中丸薫国際問題研究所理事長



梶谷澄江日朝文化交流協会副理事長



武者小路公秀前国連大学副学長

インタビュー　金日成主席を偲ぶ

新しき英雄叙事詩の国をつくったヒーロー

私が朝鮮民主主義人民共和国に初めて招かれたのは、高句麗文化展（一九八五年）の成功の直後でした。

そのとき、平壌（ピョンヤン）や開城（ケソン）などを見て、ああ、これは素晴らしい国だ、戦争で破壊されて何もなくなった所から、手作りでこんな国を作ったとはすごい、と感心しました。しかも世界の他の国とはまったく違うタイプの都市なんです。よそではまず予算があるし、専門家に任せてしまいます。でも朝鮮ではこういうものを作ろうとみんなで考えると、最後は主席が判断して、子々孫々まで役に立つものを作るんです。しかも五年あれば大事業を完成させてしまう。近代国家が予算を立て専門家にやらせて一〇年はかかるものを、国民が「やる」といってやり出すと、こんなに早くできる。それも指導者がいたからできるのでしょう。

日本に帰ってきて、『新しい英雄叙事詩の国』という詩を書きました。古代の英雄叙事詩のようなことを現代に立派にやっている国がある。いま世界のほとんどは物質主義、専門家主義ですが、朝鮮は国民全体が精神的に一致して国づくりを進めている。これは新しい生き方であると同時に、古代につながっているのだと。その詩が新聞に出まして、主席が私に会ってみたい、とおっしゃったらしいんですね。

主席とは四、五回お会いしたんですが、いわゆる英雄という感じとは違って、もっと普通の人なんです。

主席が旧満州で抗日闘争をしていた頃考えてらしたことが、また普通のことなんですよ。つまり、異民族によって支配された国が、そういつまでも続くわけがない。五〇年、一〇〇年かかるか分からないけれど、自分たちの国を作るために闘うんだと。そして自分たちが作りたい国のモデルを根拠地に作られた。そこに日本の討伐隊がきて逃げざるを得なくなると、次の所にまた作る。やられてもやられてもまた作る。朝鮮が解放されたとき凱旋して演説された内容が、力のある者は力を、金のある者は金を、学者は学問を出して、立派な独立国家を作ろうというのだったんですが、これもごく当たり前のことをいってらっしゃるんですよ。

主席のお住まいに行くまでには、たくさんの人工湖があるんです。なぜこんなにたくさんあるのかと尋ねると、何年か前雨が降らなくて困ったときがあって、長期にわたって雨が降らなくてもいいようにと、みんなで人工湖を作ったらしいんですね。その人工湖をつなげると日本海と黄海がつながる大運河ができるというんです。ああ、また夢のような面白いことをみんなで考えてんだな、と思いました。とにかく非常に夢がある。権力をもってしてもできないようなことが、話してるうちにできてしまう、そんなところのある方ですね。これがほんとの英雄だな、と思いました。

チンギス・ハーンやアレキサンダーはわりと詳しい伝記が残っているんですが、英雄としてそういうところが共通しています。つまり、非常に気持ちが大きくて、誰でも受け入れる、誰とでも親しくなる。みんなの意向を尊重して、手助けするような形で大きな事業をする。とくに若い頃非常に苦しい時代を頑張って、周囲からだんだん彼についていけばいいんだと慕われるようになるところなどチンギス・ハーンと似てますね。外国に行ってもそこの人がまたついてくる。そんな人が本当に偉い人なんですよ。世界に通ずるような大国を作った人というのは、だいたいそうなんです。みんなが自然についていく。

主席は、現代の本当の意味での英雄の一人であるといって間違いない。ある意味では、いちばん誰もやらないことをやった人だといえます。朝鮮民主主義人民共和国というのは、近現代にはまったくないタイプの国です。しかもそれが立派に成功していたということは、大変な事業だったでしょう。

私は台湾で主席の訃報を聞きました。米朝交渉などで主席が新しい局面を開いていかれたその遺志を、残された方々が受け継いでいかれることを心から願います。（蒼）



江上波夫（歴史学者）

えがみ・なみお●1906年東京に生まれる。30年東京大学文学部東洋史学科卒。東方文化学院研究員、民族研究所員、東京大学教授を経て、現在東京大学名誉教授、古代オリエント博物館館長。91年文化勲章受章。著書に「騎馬民族国家」、「江上波夫著作集」ほか多数あり。86年日本学術代表団団長として訪朝し、87年金日成主席と会見。その後もたびたび訪朝し、接見を受けている。

世界各国の党指導者、各界人士が哀悼の意



中国駐在朝鮮大使館を弔問したカンボジアの
ノロドム・シアヌーク国王（ロイター・サン）

金日成主席逝去の報は世界をかけめぐり、人々に大きな衝激を与えた。

中国の鄧小平氏、江沢民・共産党総書記兼国家主席、李鵬・国務院総理、喬石・全国人民代表大会常務委員会委員長は七月九日、金日成主席の逝去に際し朝鮮労働党中央委員会に弔電を送った。また一一日、鄧小平氏から駐中朝鮮大使館に「金日成主席をこの上ない悲しみで追慕します。鄧小平」と記した花輪が寄せられ弔意式場に供えられた。同日、中国共産党総書記の江沢民国家主席は、党と国家の指導幹部とともに駐中朝鮮大使館を弔問した。二〇日には天安門、人民大会堂、中南海の新華門、そして外交部庁舎に弔旗を掲揚し、中国のすべてのラジオ及びテレビが娯楽番組の放送を中止した。



永訣式に参加した各国の各界人士らも、主席の逝去に弔意を表した（朝鮮通信）

一五日、キューバ国家評議会議長のフィデル・カストロ・ルス首相は、駐キューバ朝鮮大使館を弔問し、哀悼の意を表し黙祷した。キューバではキューバ国家評議会政令（一一日）により、一五、一六、一七日の三日間を公式哀悼期間とし、この期間、公共の建物と軍事建物に弔旗を掲げた。

世紀の偉人であり、世界革命の指導者である金日成主席逝去の悲報が世界に伝わるや各国の国家元首はじめ機関、組織の著名人士が次々に弔意を表した。

パレスチナのヤセル・アラファト大統領、エクアドル共産党のレネ・マウヘ・モスケラ書記長、パラグアイ二月革命党のビクトル・サンチェス・ビリャグラ委員長、ブラジル一〇月八日革命運動のアルベンジオ・ディアス・デ・カルバホ国際書記、アメリカのビル・クリントン大統領、ジミー・カーター元大統領、宗教指導者ビリー・グラハム牧師、国連のガリ事務総長と国連安全保障理事会、フランスのフランソワ・ミッテラン大統領、国連総会議長スポークスマン、自主的平和統一支持エクアドル委員会のネルソン・チャベス委員長、チュチェ思想研究エクアドル文化協会のミルトン・プルバノ委員長、オスワルド・ラリバ・アルバリド国会議員など各国の党指導者、各界人士らが哀悼の意を表し声明を発表した。

また、カンボジアのノロドム・シアヌーク国王夫妻はじめユーゴスラビア大統領、シリア副大統領、首相、経済貿易相、文化国民指導相、外務担当国務相、供給商業相、民族進歩戦線メンバー、リビアの九月一日革命指導者ムアマル・アル・カダフィ大佐特使の武力総検閲官大佐、コンゴ大統領、ガーナ大統領、ギニア大統領、ザイール大統領特使、政府代表団、マダガスカル大統領特使と政府弔問団、オーストリア大統領官房室長、カザフスタン最高会議議長、マレーシア首相、ブルンジ首相、アンゴラ首相、国会議長、社会情報相、ガイアナ首相、イラン大統領、セネガル首相、アルジェリア首相、ウガ

ンダ首相、モンゴル人民革命党中央委書記、タンザニア大統領、タンザニア・ザンジバル代表団、中国人民解放軍元副参謀長、中国人民解放軍副参謀長、北京市長、北京市人民代表大会常務委員会主任、北京市人民政治協商会議主席、元北京市長助役はじめ中国人民解放軍と北京市の責任幹部と活動家、アメリカの国務省ガルーチ次官補を団長とする朝米会談米側代表団、共産党国際書記、社会労働党全国書記、元中央情報局副長官など政界や社会、学界、出版報道界の著名人、ブルガリア大統領の委任により大統領文化担当特別顧問、朝鮮人民との友好及び連帯スペイン協会委員長、共産党国際部はじめ政界、社会の活動家、ジンバブエ大統領、バングラデシュ大統領、パキスタン首相、ラオズ首相、大統領、国民会議議長、ハンガリー大統領特使の大統領対外政策顧問、チェコ大統領特使の大統領官房室儀礼局長、ペルー大統領特使の大統領武官、ポーランド政府代表団、共産主義者同盟、社会民主党代表団、老兵全国理事会代表団ほか、ベルギー労働党中央委員長を団長とするベルギー労働党代表団、タンザニア青年同盟代表団など各国の大統領特使、政府代表団、各界人士らが各国駐在朝鮮大使館を弔問したほか世界五大陸の人民も弔問におとずれ金日成主席を追慕し、哀悼の意を表した。



7月11日、中国共産党総書記の江沢民国家主席が党と国家の指導幹部とともに駐中朝鮮大使館を弔問した（ロイター・サン）

　また、各国で金日成主席逝去を悼み政令、公報、決定が相次いで発表され、弔旗掲揚、哀悼期間の設定、追悼式および追悼集会がおこなわれた。

　カンボジアでは一〇～一二日までの三日間を哀悼期間とし、この期間弔旗を掲げた。ニカラグアではニカラグア大統領発表の政令第一六四ー九四号（九日）により一二日から三日間、公式哀悼期間として弔旗を掲げた。インド政府では一八～二〇日までの三日間を哀悼期間に定めこの間、インド全地域と海外のインド外交代表部で弔旗を掲げ、公式的な娯楽行事の禁止を決定した。ラオスの党と政府は一四～一六日までの三日間を全国哀悼の日に決め全国及び各国駐在の同国大使館で弔旗を掲げた。ベトナム政府は一七日を哀悼の日にし機関、企業所で弔旗を掲げ遊戯、娯楽を慎んだ。シリア・アラブ共和国では全ての建物、機関で一〇～一七日まで弔旗を掲げた。タイ首相公報は全ての国家機関、国営企業所で一一～一三日までの三日間、弔旗を掲げた。ネパール内務省は一七日を全国的な哀悼の日とし弔旗を掲げ、この日一切の行事や組織的な集会、宴会、歌舞を禁止した。ウガンダでは一九日、弔旗を掲げ歌舞を禁止した。モザンビーク政府は一七日を全国哀悼の日と決めた。国連では国連安全保障理事会はじめ哀悼期間中におこなわれた諸会議で主席追慕の黙祷をした。また一五日、トーゴ共和国では大統領参加のもと追悼式が大統領宮殿でおこなわれた。九日、ロンドンでイギリス共産主義組織臨時委員会、共産党、朝鮮友好委員会、イギリスのインド労働者協会の共催で追悼集会がおこなわれた。

　このほか世界各国の首脳や人士、政党代表らから数多くの弔電が、金正日書記と朝鮮労働党中央委員会や朝鮮民主主義人民共和国政府に寄せられた。

　また、世界各国のマスコミが金日成主席の逝去に哀悼の意を表し、主席追慕の記事を掲載、主席が築き上げた革命業績を称賛し報道した。



20日、金日成主席の逝去に哀悼の意を表するため、弔旗が掲げられた中国の首都北京の天安門広場。北京ではこのほか、党と政府の所在地の正門である新華門、国会議事堂である人民大会堂、中国外務省でも弔旗が掲げられた（中国通信）

“弔意は同族として当然の道義” ●南朝鮮

金日成主席の逝去を惜しむ悲しみは、南北を問わず朝鮮全土をつつんだ。

南朝鮮の在野団体や学生、市民など各界で、金日成主席の逝去に哀悼と弔問団派遣の意が次々に表明された。

在野経済団体が公式に哀悼表明をするのが望ましいとのアピールをしたのをはじめ、全国的なキリスト教団体も「平和メッセージ」を送るよう、政府に求める声明を発表した。

南朝鮮の劉元琥氏と「統一迎え七千万同胞の集い」理事長である故文益煥牧師の夫人朴容吉女史、民族自主平和統一中央会議の羅チャンスン常任議長が、金日成主席逝去を悼み各々弔電を送った。

一方、「韓国大学総学生会連合」は一三日、哀悼の意を表す声明で「金日成主席が南北最高位級会談を目前に、突然逝去したことは全民衆の大きな痛みであり損失であり、以南の政党、社会団体とともに弔問団を派遣して以南でも追悼と哀悼行事をおこなうことを許可するよう政府当局に求める」と発表、一四日には、ソウルの漢陽大学で記者会見し、南朝鮮当局が公式弔問団を共和国に派遣しない場合、独自に弔問団を派遣すると言明。また一五日までに高麗大、漢陽大、釜山大など各地二九の大学で「金日成主席の死を民族の名において哀悼すべき」など、弔意を表する内容の壁新聞が貼られた。

金日成主席の永訣式がおこなわれた一九日には、南朝鮮全土の大学で主席を追悼する垂れ幕やプラカード、壁新聞などが掲示された。ソウル市立大の本館建物には「金日成主席の逝去に民族和解の大義から哀悼の意を表します」と書かれた全長五メートルの垂れ幕が掲げられた。南朝鮮当局はこの日、二万八〇〇〇人の警官を全大学に分散配置し徹底的に弾圧、多数の学生が負傷する事態も発生した。

また、祖国統一汎民族連合南側結成準備委員会は一三日、金日成主席の追悼式に参加できるよう共和国訪問許可を統一院に求め、一六日には同委員会姜希南議長と安熙満幹事を含む弔問団が、ソウルを出発して板門店から共和国入りすることを明らかにした。姜議長らは出発に先立ち発表した声明で、同族として弔問団を派遣することは当然であり、南の「政府」も公式に弔意を表明すべきだと主張。しかし南朝鮮当局はタクシーに乗って板門店に向かっていた弔問団を、京畿道高陽市の検問所から連行した。

主席逝去の悲報が報じられた九日、大田刑務所の六〇歳を越える非転向長期囚三人は、夕方から哀惜と悲痛の念から哀悼の意を込め断食を実行した。

また「韓国」の新聞社「世界日報」の朴普熙社長が金日成主席の弔問のため一三日、平壌入りした。

金日成主席逝去を追悼する南朝鮮人民は、南朝鮮当局の弾圧を反倫理的、反民族的行為として非難し、金日成主席の逝去に深甚なる哀悼を表した。


金日成主席追悼式に参加するため板門店に向かう途中、逮捕された祖国統一汎民族連合南側結成準備委員会姜希南議長ら弔問団（ロイター・サン）



南朝鮮各地の大学で金日成主席逝去に哀悼の意を表する壁新聞が貼られた（成均館大学、W.W.P.）

インタビュー　金日成主席を偲ぶ

深い人間性、暖かい心をもった指導者

私は日本と朝鮮の国交を正常化し金日成主席を日本にお招きすることが、政治家としての一つの夢でした。主席の生涯は、解放前は抗日パルチザン闘争、解放後は祖国統一のための闘いに費やされた一生でした。日本政府は、主席がお元気なときに共和国との関係を改善するべきでした。なのに何一つ関係を改善することなく、お詫びもしないで、主席を逝かせてしまった。そのことが何よりも悔やまれてなりませんし、自分たちの力が足りなかったという思いです。

私は一九七二年に初めて共和国を訪問し、主席とお会いしました。それ以来、すっかり主席に魅せられて、ファンになってしまいました。主席にお会いしたとたん、肉親のような親しみが湧き、何でもお話をしたくなるから不思議です。そういう雰囲気をもっていらっしゃるし、お話のしかたをなさる。どなたでも一度お目にかかれば、きっとその魅力に引き込まれると思います。

九二年七月「アジアの平和と女性の役割」平壌（ピョンヤン）セミナーの団長として共和国を訪問した際にも、変わらぬ主席のお人柄を再確認することができました。セミナーには「韓国」の女性たちも参加したのですが、主席が彼女たちに昼食会をもてなしてくださった時のことです。彼女たちは「もっと権力的な人かと思っていたら、普通の、お父さんのような人だった」と、とても喜んで帰ってきました。今まで想像していた人物像とは全然違っていた、またお会いしたいし、お話がしたいという気持ちで一杯だと、興奮した様子で語ってくれました。翌日、日本の代表団が昼食会に招待され、メーンテーブルに主席は私と三木睦子さんの間に座られました。「韓国の女性たちが金剛（クムガン）山に登りとても喜んでいました。私が統一したら金剛山にお年寄りも登れるようケーブルカーをつける計画をしていると話したところ、金剛山は民族の魂だからケーブルカーをつけて自然をこわさないでくれ、と言うのです。むずかしいものだなあと、つくづく考えさせられました。年をとった人が登れないからと思い計画したのに、やめてくれと言われてしまった。どうすればいいか色々考えてみました。でもいい案が浮かばないので、今朝、設計士に電話をかけて、もう一度検討してみるようにと伝えたところです」とおっしゃったのです。

普通なら公式の場で主席にそういうことはやめてください、なんてなかなか言えないですよね。主席には形式的な権威や緊張がないから、自由に言えるんだと思います。皆が何を求め、どうすればかなえられるかを考えるのが主席の一貫した姿勢なんですね。人々の願いを軽視したり、聞き逃す政治家が多いなかで、主席は民衆のなかで民衆とともに生き、民衆とともに国づくりをするという視点と姿勢をもっておられるからこそ接見した人たちの言葉に耳を傾け、それをくみとり実践しようとなさる。そこがやっぱり人民に慕われた理由だったと思います。それだけに人間的に深い、暖かい心を持った指導者でいらしたんですね。ましてや共和国は周りを大国に囲まれ、その中で独自の社会主義建設をやり抜いてきた。主席の指導力があったからこそ実現できたのだと思います。リーダーに自らの哲学がなければ、とてもできることではないんですね。

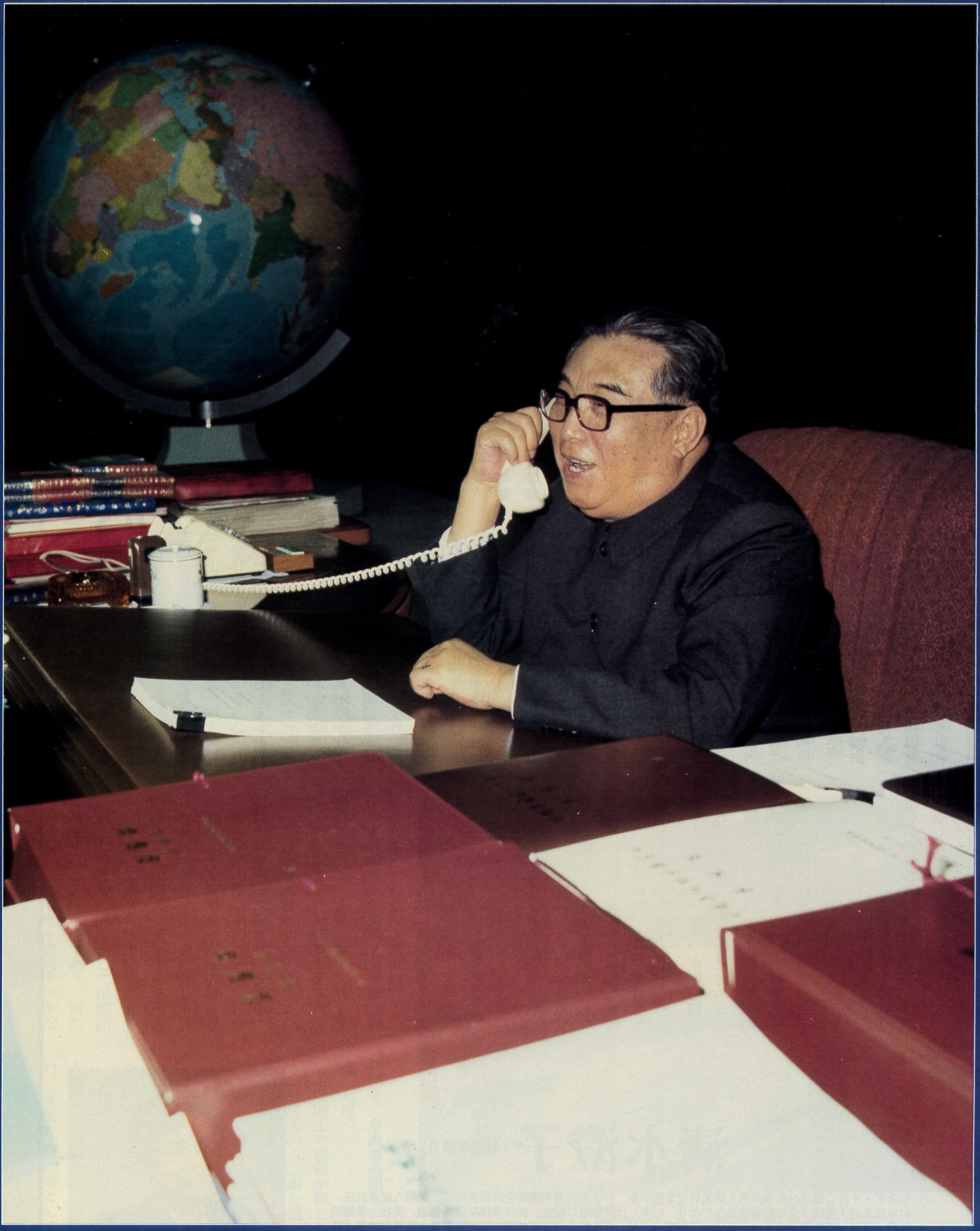
主席は私たちに「日本に多くの友人がいると思うと心強い。女性たちが手をつないだら大きな力になるでしょう」といつも褒めて下さいました。その言葉にどれだけ励まされてきたか知れません。チュチェ思想という人間哲学で社会を導いてこられたこと、それを実践する過程を私は自分の目で確かめ、また、指導者ともお会いして、納得ができたことをとても幸せに思います。主席と何度もお会いできて本当に幸せだった。主席が亡くなられたいま私は知らぬ内に、自分のなかの主席の影響力を感じずにいられません。

私は日本と朝鮮との国交を一日でも早く正常化し、朝鮮半島の統一を成し遂げることに力を尽くすつもりです。そのことが、私の主席へのご恩返しだと思っています。（順）



清水澄子（参議院議員）

しみず・すみこ●1944年福井県丸岡高等女学校卒業。51年福井県労働組合評議会勤務。同婦人部長就任。67年日本婦人会議中央本部事務局長となり、83年には同議長に就任。89年参議院議員当選。現在、参議院外務・決算・環境特別委員会委員、社会保障制度審議会委員、日本社会党戦後補償対策特別委員会事務局次長、「アジアの平和と女性の役割」実行委員会委員長、朝鮮女性と連帯する日本婦人連絡会事務局長などを務める。72年より９回訪朝し、金日成主席から72年、78年、90年、92年４、７月の５度の接見を受ける。



「わたしは、自分の一生が決して並はずれた特別なものだとは思っていない。ただ、ひたすら祖国と民族のためにささげた一生であり、人民とともに歩んだ一生であったと自負することで満足するのみである。」

（金日成回顧録『世記とともに』より）

大河の生涯、チュチェの新時代拓く

民族の独立と人民大衆の幸福にささげた
金日成主席の80余年の生涯。
それは、民族史にとこしえに輝く
すぐれた指導者の歴史であり、
偉大な業績で人類史に貢献した
偉人の足跡でもある。



命活動関連年表

部員、横浜朝鮮初級学校音楽舞踊サークル員たちを接見。「在日朝鮮青少年は社会主義祖国を熱烈に愛すべきである」との談話おこなう

12・16 在日本朝鮮人科学者代表団を接見。「在日本朝鮮人科学者はわが国の科学技術の発展に積極的に貢献すべきである」との談話発表

25 最高人民会議第5期第1回会議で新設された国家主席に就任。「朝鮮民主主義人民共和国社会主義憲法」採択

73・6・1 総聯活動家たちを接見。「総聯活動家の課題について」という談話おこなう

11・19 第2次在日同胞商工業者祖国訪問団を接見。「在日朝鮮商工業者は祖国と民族のための愛国事業に積極的に寄与すべきである」との談話おこなう

74・3・21 最高人民会議第5期第3回会議で税金廃止の法令を発布

6・27 在日朝鮮芸術人が出演した革命歌劇「金剛山のうた」公演を観覧、その後彼らを接見。「在日朝鮮人芸術家は社会主義的民族芸術を発展させるべきである」との談話おこなう

9・24 在日朝鮮青年芸術・体育代表祖国訪問団ら同胞訪問団を接見。「わが国の情勢と在日本朝鮮青年同盟の任務について」と題して演説

75・4・18 中国訪問(〜26)

5・22 ルーマニア、アルジェリア、モーリタニア、ブルガリア、ユーゴスラビア訪問(〜6・9)

9・8 韓徳銖議長を団長とする朝鮮総聯代表団を接見

77・11・5 在日朝鮮女性代表団を接見。「在日本朝鮮民主女性同盟の若干の課題について」との談話おこなう

20 在日本朝鮮出版報道活動家代表団を接見。「在日朝鮮出版報道部門活動家の前に提起されるいくつかの課題について」との談話おこなう

80・5・7 ユーゴスラビア、ルーマニア訪問(〜12)

10・10 朝鮮労働党第6回大会(〜14)で報告、高麗民主連邦共和国創立方案と10大施政方針を提示

82・9・15 中国訪問(〜26)

4・9 共和国中央人民委員会、在日本朝鮮商工人たちに「社会主義愛国賞」を授与する政令発表

83・8・19 共和国中央人民委員会、総聯の教育活動家に初の人民教員称号を授与する政令発表

84・5・16 ソ連、ポーランド、東ドイツ、チェコスロバキア、ハンガリー、ユーゴスラビア、ブルガリア、ルーマニア訪問(〜7・1)

11・26 中国非公式訪問(〜28)

86・10・22 ソ連訪問(〜26)

87・5・20 中国訪問(〜26)

89・7・7 第13回世界青年学生祭典に参加した韓徳銖議長一行、在日同胞らを接見

11・5 中国非公式訪問(〜7)

90・4・12 金日成主席と金正日書記、総聯活動家代表団を接見

5・24 最高人民会議第9期第1回会議(〜26)で施政演説「わが国の社会主義の優位性をさらに高く発揮させよう」

9・26 自民党の金丸信元副総理、社会党の田辺誠副委員長と会見(〜27)。28日に朝鮮労働党、自民党、社会党の3党共同宣言発表

92・4・13 大元帥称号授与

4 回顧録「世紀とともに」刊行開始(〜94・6、5巻まで)

93・4・6 「祖国統一のための全民族大団結10大綱領」提示

12・25 ガリ国連事務総長と会見

94・1・1 新年の辞で農業第1主義、軽工業第1主義、貿易第1主義方針を提示

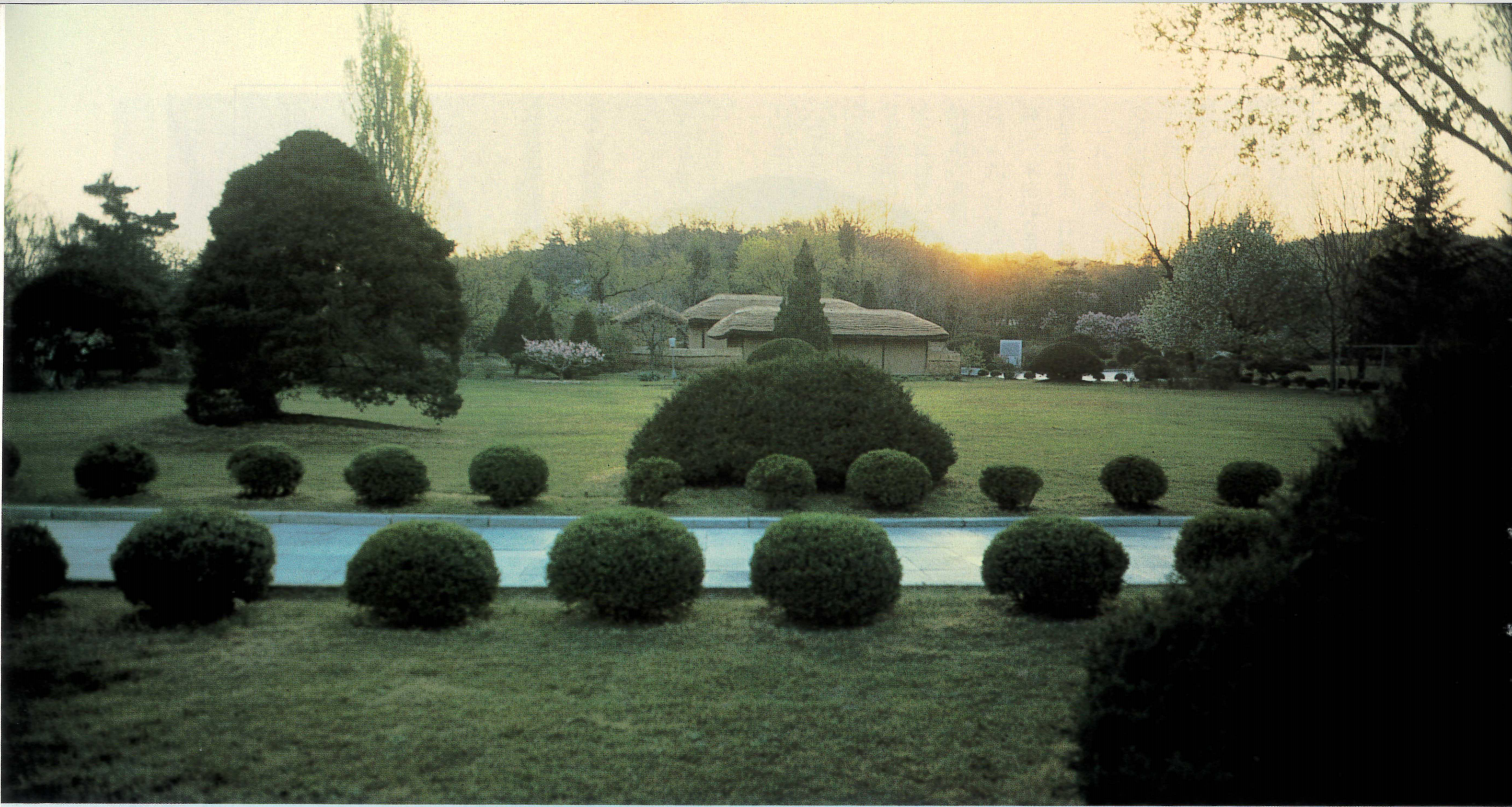
2・24 全国農業大会に書簡「社会主義農村テーゼの旗の下、農村問題の終局的解決のために」送る

4・16 米CNNテレビ副社長らを含む世界各国の元首班・政治家の平壌代表団と会見

6・16 カーター元大統領と会見(〜17)

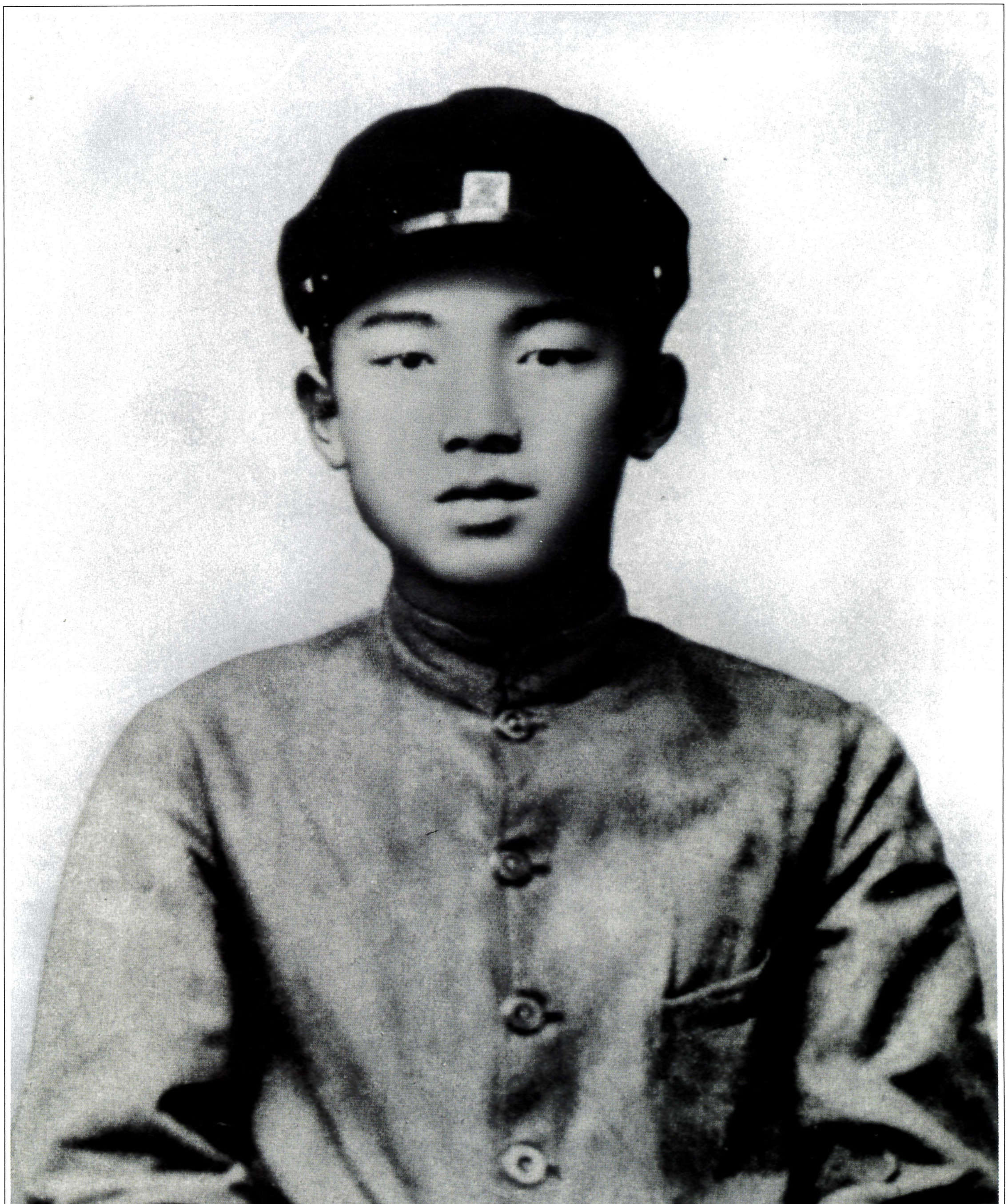
6・19 三木睦子元首相夫人と会見

7・8 逝去



金日成主席の革

1912・4・15	現在の平壌市万景台で誕生
25・1～2	祖国解放の大志をいだき鴨緑江を越えて旧満州へ
26・10・17	打倒帝国主義同盟(Ｅ・Ｃ)結成
27・8・28	朝鮮共産主義青年同盟組織
30・6・30	卡倫会議(～7・2)で演説「朝鮮革命の進路」
31・5・20	明月溝会議で演説「左傾的冒険主義路線を排撃し、革命的組織路線を貫徹しよう」
31・12・16	明月溝会議で演説「日帝に反対する武装闘争を組織展開することについて」
32・4・25	反日人民遊撃隊(後の朝鮮人民革命軍)創建
36・5・5	祖国光復会創建、会長に。10大綱領を発表
37・6・4	普天堡戦闘勝利
45・8・15	祖国解放
10・10	北朝鮮共産党(後の朝鮮労働党)創建
46・2・8	北朝鮮臨時人民委員会樹立、首班に就任
8・28	北朝鮮労働党創立大会(～30)。共産党を労働党に改編
12・13	公開書簡「在日100万同胞に」を送る
47・2・22	北朝鮮人民委員会樹立、首班に就任
48・2・8	朝鮮人民革命軍を正規武力である朝鮮人民軍に改編
4・20	主席のよびかけで南北政党社会団体連席会議
9・9	朝鮮民主主義人民共和国創建。内閣首相、国家首班に就任
12・23	共和国創建在日朝鮮人祝賀団を接見
50・6・25	朝鮮戦争勃発(～53・7・27　停戦協定調印)
7・4	朝鮮人民軍最高司令官に就任
53・2・7	朝鮮民主主義人民共和国元帥称号授与
12・10	在日朝鮮同胞代表を接見
55・5・25	金日成主席の指導と配慮の下、在日本朝鮮人総聯合会結成大会開催(～26)
56・6・1	ソ連はじめ東欧諸国、モンゴル訪問(～7・19)
56・12～	千里馬運動はじまる
57・4・8	在日朝鮮人子女に向け第1回目の教育援助費と奨学金送る(94・4まで合計127回、総額約420億円)
58・9・8	共和国創建10周年平壌市祝賀大会での演説で、共和国政府は在日朝鮮同胞の帰国を歓迎すると表明
11・21	中国、ベトナム訪問(～12・10)
59・12・14	第1次帰国船が新潟港出港。16日に清津港到着
60・1・8	総聯の韓徳銖議長に初めて新年の祝電
2・8	平安南道江西郡青山里党総会を指導。「青山里精神、青山里方法」創造
8・9	共和国最高人民会議常任委が総聯活動家に共和国の勲章を授与する政令発表
61・6・29	ソ連、中国訪問(～7・15)
12・16	平安北道・大安電機工場党委員会拡大会議を指導。「大安の事業体系」を確立
63・10・9	最高人民会議常任委、共和国国籍法を制定、公布
64・2・25	「わが国における社会主義農村問題に関するテーゼ」発表
65・4・10	インドネシア訪問(～20)
10・22	最高人民会議常任委、朝鮮の芸術部門活動家に功勲芸術家、功勲俳優称号を授与するについての政令発表
66・10・5	朝鮮労働党代表者会議(～12)で党中央委総書記に就任
67・11・25	第4期最高人民会議代議員選挙で、総聯代表7人選出
12・14	最高人民会議第4期第1回会議(～16)で共和国政府政綱「国家活動のすべての分野で自主、自立、自衛の革命精神を一層徹底的に具現しよう」発表
70・11・2	朝鮮労働党第5回大会(～13)で報告、共和国が社会主義工業国になったことを宣布
71・5・12	帰国再開第1次船(156次)が新潟港に入港
72・4・29	第6回在日同胞祖国訪問団団員と接見。「在日朝鮮同胞は社会主義祖国の公民としての栄誉を胸に深くきざみつけるべきである」との談話おこなう
5・3	南北協議のため平壌入りした南側代表と会見、祖国統一3大原則を提示、最高位級会談を発議(同年7月4日、3大原則を基本内容とする南北共同声明発表)
8・18	祖国を初めて訪問した東京朝鮮中高級学校サッカー



吉林時代の金日成主席(1927年)

偉大な生涯、不滅の業績

金日成主席は、朝鮮が日本の軍靴に踏みしだかれてまもない一九一二年四月一五日、平壌(ピョンヤン)市万景台(マンギョンデ)の貧しい農家で誕生した。

代々愛国的で革命的な家庭に育った主席は、非凡な英知と強靭な意志、豊かな才能と闊達な気質をそなえ、一三歳のとき祖国解放の大志を抱いて中国東北地方へ渡った。

一九二六年一〇月、樺甸で愛国的青年を結集、打倒帝国主義同盟を組織し、本格的な革命活動に身を投じた。一九三〇年六月、卡倫会議で「朝鮮革命の進路」について報告したが、そこにはチュチェ思想の原理にもとづく主体的な革命路線がうちだされていた。

こうして一九三二年四月二五日、わずか二〇歳の身で安図において朝鮮初の主体的革命武力——反日人民遊撃隊（のちの朝鮮人民革命軍）を創建したのである。

世界の戦史上、類例を見ない英雄的な抗日武装闘争は、祖国光復会の創立（一九三六年五月）によっていっそう拡大された。そして「朝鮮は死なずに生きている！」と全世界に告げた普天堡(ポチョンボ)戦闘の勝利（一九三七年六月）が示すように、祖国独立と民族再生の道を切り開いた。

一九四五年八月一五日、約半世紀におよぶ日本の植民地支配に終止符が打たれ、朝鮮はついに解放された。

全人民の歓呼のなかで祖国に凱旋した金日成主席は、アメリカの南朝鮮占領に対処してチュチェの建党・建国・建軍路線を提示し、それを輝かしく実現していった。



抗日武装闘争時代の金日成主席（中央）

主席は一九四五年一〇月一〇日、朝鮮革命の参謀部である朝鮮労働党を創建し、反帝反封建民主主義革命の課題を遂行しながら、アメリカの南朝鮮かいらい政権樹立の動きに対して、重大な救国方針をうち出した。

こうして一九四八年九月九日、南北総選挙による朝鮮人民の真の祖国——朝鮮民主主義人民共和国が創建されたのである。

アメリカは誕生まもない共和国を圧殺しようと、三年間にわたる朝鮮戦争（一九五〇〜五三）を挑発した。しかし主席は全軍民を総決起させ、「世界最強」を豪語した米軍と追随軍を撃退し、祖国の独立と栄誉を輝かしく守りぬいた。

そして廃墟と化した国土の復興建設闘争、チョンリマ運動に全人民を奮い立たせ、世界の人々から「不死鳥の国」「二〇世紀の奇跡を起こした国」と賞賛される成果を生んだ。

こうして主席は、ひきつづき朝鮮式の独創的な革命路線と政策によって、民主主義革命と社会主義革命を成功裏に遂行し、社会主義建設を力強く推進して、世紀的な立ち遅れと貧困が支配していた朝鮮を、自主・自立・自衛の社会主義強国に発展させたのである。

主席はまた、祖国の統一を民族至上の課題とみなし、自主的平和統一のためのもっとも正当な原則と方途を明らかにして、南北、海外の全同胞を「祖国統一のための全民族大団結一〇大綱領」（一九九三年四月）実現へと立ち上がらせている。

さらに主席は、社会主義の旗、反帝自主の旗を高くかかげ、社会主義偉業の勝利と非同盟運動の強化発展のために、世界平和と諸国人民間の友好、団結のために精力的な活動をつづけ、「世界革命にささげる国際主義者の真の模範」とたたえられている。

主席の座右銘は「以民為天」、すなわち「人民大衆を天とみなす」であった。主席がつねに人民の中へ入り、人民と苦楽をともにしながら、ひたすら祖国と人民のために現地指導をつづけたのは、世界周知の事実である。

だからこそ全人民は、主席を「父なる領袖」「人民の慈父」と仰ぎ、慕い、永遠の忠誠を誓ってきたのである。

まさに金日成主席の全生涯は、ひたすら祖国と革命のために、労働者階級と人民大衆のために、あらゆる艱難辛苦をのりこえてきた偉大な革



祖国解放に歓喜する平壌市民の前で凱旋演説をおこなう金日成主席（1945・10・14）



降仙製鋼所の労働者と語り合う主席（1960・10）

命家のもっとも輝かしい一生であり、天才的英知と卓越した指導力、不屈の闘志で勝利の道を歩みつづけた不世出の指導者のもっとも栄えある一生であった。

　朝鮮人民は、金日成主席の不滅の業績と偉大な生涯を胸に刻み、今後も愛唱してやまなかった「金日成将軍のうた」をうたい、力強く闘うであろう。

長白（チャンベク）の山なみ血にそめて
鴨緑（アムロク）の流れを血にそめて
自由朝鮮きずくため
戦いきたりしそのあとよ
ああ、その名も高き
金日成将軍
ああ、その名もゆかし
金日成将軍

満州の吹雪よ語れかし
密林の長き夜よ告げよかし
不滅のパルチザンはそも誰ぞ
絶世の英雄はそも誰ぞ
ああ、その名も高き
金日成将軍
ああ、その名もゆかし
金日成将軍

　いま朝鮮人民の先頭には、チュチェ偉業の偉大な継承者であり、党と人民の卓越した指導者であり、革命武力の最高司令官である金正日書記が立っている。

　朝鮮人民は、今後も偉大なチュチェ思想の旗を高くひるがえし、金日成主席の革命偉業を必ずや最後まで完成させるであろう。



雄基総合農場を現地指導する主席（1981・5）



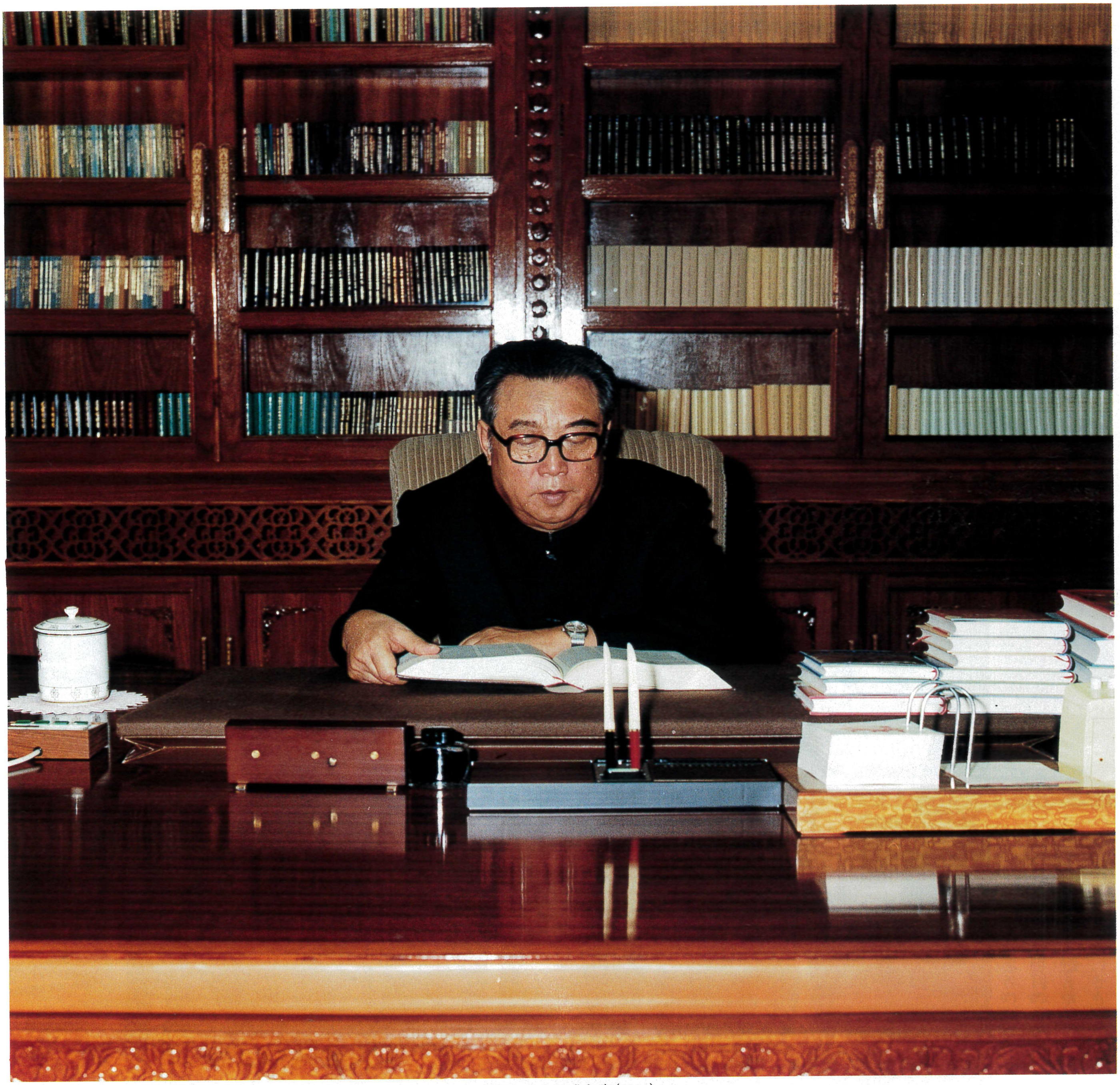
西海閘門完成のテープを切る主席（一九八六・六）



新義州の住宅建設を指導する主席（1985）



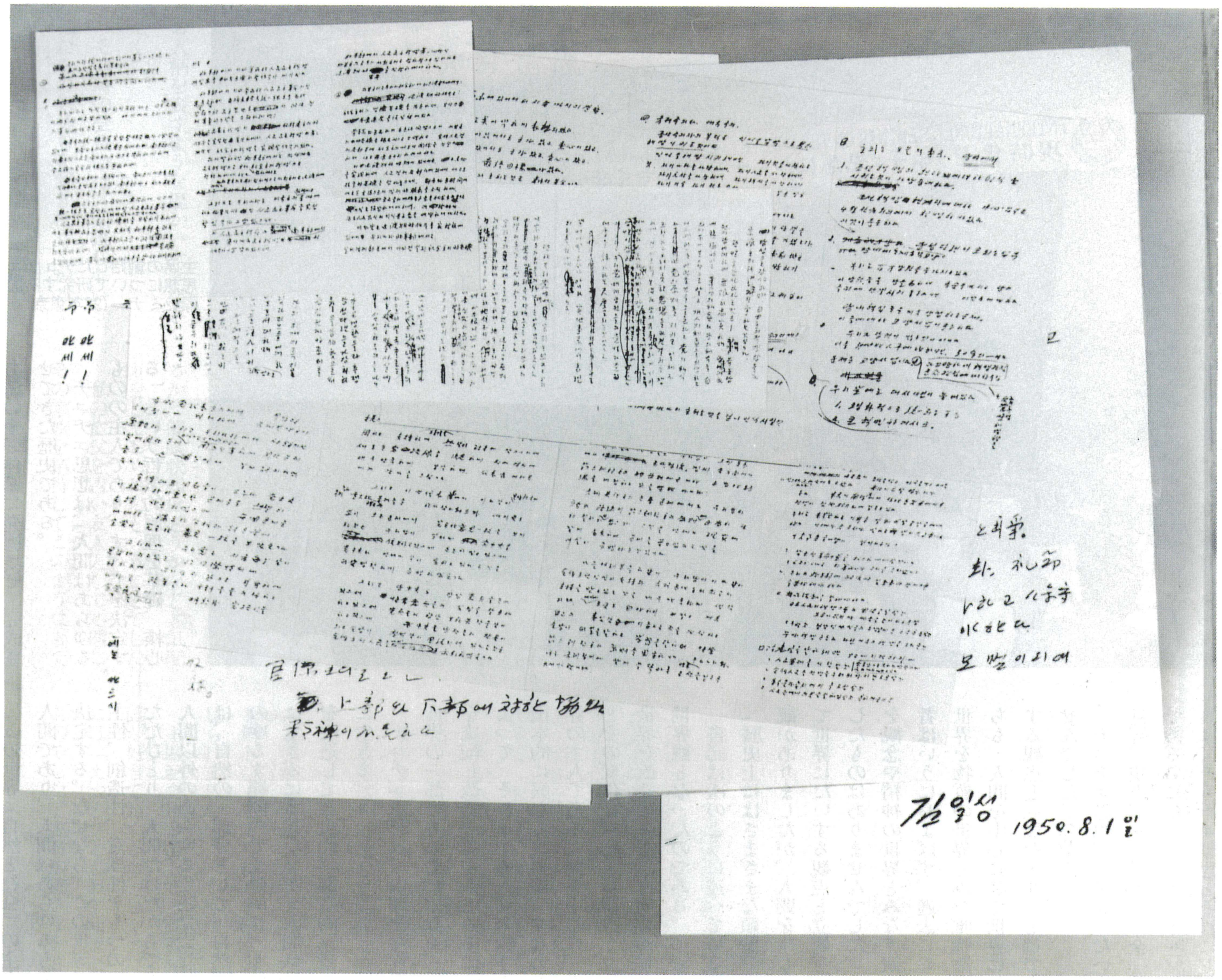
新しい住宅建設を指導する主席と金正日書記



書斎での金日成主席(1981)

金日成主席の不滅の思想・理論的業績について

井上周八(チュチェ思想国際研究所理事長・立教大学名誉教授)



主席の直筆原稿

人民大衆の幸福ならびに祖国の統一と全世界の自主化のために一生を捧げ、生涯の最後の瞬間までつくされた敬愛する金日成主席が急逝された。

主席の急逝は朝鮮人民の最大の悲しみであると同時に、全世界の進歩的人民にとっても大きな衝撃であった。

金日成主席は幼少の頃から革命の道に立ち、八二歳の今日まで、朝鮮革命と世界の自主化のために多面的な活動を展開してきたが、わたしは哀悼の意とともに、ここであらためて主席の偉大な思想・理論的業績について述べたいと思う。

金日成主席の思想・理論的業績は、いうまでもなく、人間中心のチュチェ思想と、チュチェ思想にもとづくキムイルソン主義を創始し、発展させたことである。

チュチェ思想とキムイルソン主義は、人民大衆が歴史の舞台に主人として登場し、歴史を力づよく推しすめる自主の時代の指導思想・指導理論として創始された。

チュチェ思想とキムイルソン主義が、過去のあらゆる思想・理論と根本的に異なる点は、それが徹底した人間（人民大衆）中心の思想・理論であり、人間本位の革命的学説だというところにある。

金日成主席は、人間は自主性、創造性、意識性をもつ社会的存在であり、それゆえ「人間はあらゆるものの主人であり、すべてを決定する」という哲学的原理を思想史上はじめて明らかにし、人間の尊厳と価値を限りなく高めた。

金正日書記は、『チュチェ思想について』の前文で次のように述べている。

「チュチェ思想は主席の深奥かつ多面的な思想理論活動の貴い結実であり、チュチェ思想の創始はその革命業績のうちでもっとも輝かしい地位をしめています。

主席によって偉大なチュチェ思想が創始された結果、労働者階級と人民大衆には革命勝利の新しい道がきりひらかれ、人民の革命偉業遂行において歴史的な転換がもたらされました。……

チュチェ思想でしっかりと武装し、その旗をかかげて進むとき、いかなる難関と試練をも克服し、革命と建設で勝利を達成することができるということは、半世紀を越える革命闘争の歴史を通じて朝鮮人民の胸に深く刻まれた信念であります」

金日成主席は、父金亨稷先生の志を受け継ぎ、革命活動の初期にマルクス・レーニン主義に精通し、それを朝鮮革命の実践に適用するにとどまらず、確固とした主体的立場にたって革命理論の新たな領域をきりひらき、革命実践が提起する諸問題を解明し、ついに一九三〇年六月、卡倫で開かれた共青および反帝青年同盟の幹部会議で、チュチェ思想の原理を明らかにし、朝鮮革命の主体的路線を明確にさし示したのである。

金日成主席の一生は、革命実践を通じてチュチェ思想を創始し、それ



主席の創始したチュチェ思想について研究する国際セミナー（92年東京）

を独創的なチュチェの思想、理論、方法の全一体系に発展させ、完成させてきた歴史である。

チュチェ思想は、「人間はあらゆるものの主人であり、すべてを決定する」という哲学的原理を基礎、核心としている。

この世界（自然と社会）の主人は人間であり、人間はあらゆるものを決定する。なぜなら、この世界で自主性、創造性、意識性をもつのは、ただひとり、人間だけだからである。人間以外のあらゆる生物（生命物質）は、自然の一部分として、自然環境のゆるす範囲内で受動的に、本能的に生きるにすぎないが、人間は世界を改造して自主的、創造的、意識的に生きる。

チュチェ思想は、人間をたんなる世界の一部分としてではなく、世界を支配し改造する主人とみることによって、それまでの一切の哲学とは根本的に異なる世界観、すなわち世界の主人である人間を中心に、世界とその変化に対応する観点と立場、世界を改造する方法を明らかにした世界観となったのである。

書記は次のように述べている。

「歴史上にはさまざまな類型の世界観がありましたが、人間を中心にして世界にたいする観点と立場を解明したものはありませんでした。世界を観念や精神の世界とみなす観念論者はいうにおよばず、過去において世界を物質の世界とみた唯物論者たちも、人間を中心にして世界にたいする観点と立場を示すことはできませんでした。」（同上）

チュチェ思想が、世界にたいする見解、観点、立場、方法の全一体系であるのにたいし、キムイルソン主義は、チュチェ思想とそれにもとづいて明確にされた革命と建設にかんする理論と方法の全一体系である。

金正日書記は、「キムイルソン主義こそはわれわれの時代、チュチェ時代の真の革命の指導思想・指導理論・指導方法です」（同上）と述べている。

書記は、また、「キムイルソン主義はチュチェ思想を真髄とする思想理論体系であります。キムイルソン主義の独創性はチュチェ思想の独創性によって規定されます。したがって、われわれはキムイルソン主義について論ずるとき、まずチュチェ思想を考えることになるのです」と述べるとともに、「だからといって、チュチェ思想とキムイルソン主義を同一視してはなりません。現在、一部の人はチュチェ思想とキムイルソン主義を同一視していますが、それは内容において同一のものではありません」（『キムイルソン主義の独創性を正しく認識するために』）と述べている。

チュチェ思想は哲学的世界観であるが、キムイルソン主義は、この世界観にもとづく革命と建設に関する理論であって、チュチェ思想にくらべてキムイルソン主義は、その内容において、より広い分野を含むものであることを、書記はここで指摘しているのである。

なお、チュチェ思想もキムイルソン主義も、前述のように方法論をその不可欠な構成部分としているが、この両者の方法論は、いずれも、自然と社会と人間自身を改造変革するために、人民大衆を奮起させる方法であり、指導芸術ともよばれている方法である。

主席は社会の主人である人民大衆の自主的要求を実現するため、人民大衆の創造力を最大限に発揮させる指導方法を早くも抗日武装闘争の初期から創始した。

金日成主席はまた、チュチェ思想にもとづいて新たな社会主義・共産主義学説を創始し、社会主義・共産主義理論を発展させた。

金日成主席がチュチェ思想にもとづいて創始し、金正日書記が継承発展させた人民大衆中心の新たな社会主義・共産主義学説は、こんにち、先行の社会主義・共産主義学説であるマルクス・レーニン主義の歴史的制約性にもとづく誤りを克服し、人民大衆中心の、必勝不敗の朝鮮式社会主義として具現されている。

金正日書記は述べている。

「主席は社会主義・共産主義社会の姿とその実現への合法則的路程を独創的に明らかにしたのにもとづき、社会主義・共産主義建設の革命的原則と科学的方途を明確にして共産主義理論を新たに発展させ、それがわが国の現実に具現されるよう賢明に導いてきました。これは主席が人民大衆の自主偉業に寄与した偉大な歴史的功績となります。」（『社会主義建設の歴史的教訓とわが党の総路線』）

金日成主席は、悲しくも逝去された。しかし、主席の社会的政治的生命、その不滅の思想・理論的業績は永遠に生き続けるであろう。

インタビュー

金日成主席を偲ぶ

偉大な「村夫士」

亡き父、高木健夫の遺族として姉と二人で招待されて訪朝したのは一九九一年の五月のことでした。亡父は、金日成主席とその抗日革命闘争を新聞記者として見聞した体験から著書にまとめて紹介いたしましたが、仕事のことをめったに話さない父が、主席のことを「男が惚れる男」と語っていたことが思い出されます。

私が金日成主席に初めてお目にかかったのはこの最初の訪朝の時でした。平壌郊外の迎賓館に伺いましたとき、自ら玄関で迎えて下さったのです。夢中で挨拶し握手しましたが、お人柄を表すような温かい大きな手でした。

その時の会見では、緊張している私たちの気持ちを解きほぐすかのように、今日は政治は抜きにして気楽にいきましょう、とおっしゃって下さり、非常に細やかな気配りをして下さる方だという印象を持ちました。

会食の席でも、そのこまやかな気配りはかわることはありませんでした。招待客が食事を十分に楽しめるように豊富な話題を提供して和ませ、その話術に私たちもおおいに楽しんで気軽に会話を交わし、時間の経つのも忘れるほどでした。

後で聞いたことですが、私たちの短い滞在期間中に主席は十数回も電話を下さって、食事は口にあっているか、健康状態はどうかなどと気配りをしておられたということでした。

私の亡父を古い友人として処遇し、その家族を招待してこのようにもてなして下さる主席の人柄に教わることばかりでした。人間としての温かさとその懐の大きさ、威圧感を感じさせない威厳と風貌、そうした人柄を、失礼を承知の上で申しあげれば、偉大な「村夫士」と言いましょうか。

村人が大事ばかりでなく、どんな小さい事でも早朝から出かけて行って相談したくなる、それを快く迎えてくれて温かく諭して的確な判断を下してくれる村の長老。主席にはそんな温かさと慈しみ、こちらの緊張を解きほぐしてくれる心の広さが感じられました。

主席が会食の席上で「寅さんの映画が好きでね」とおっしゃったときには「えっ！」と思わず聞き返したものでした。主席が寅さんを好きなのは「寅さんは民族の心をもっているよ。外国、たしかハワイだったかな、行くときに、あのダボシャツに背広、下駄といった格好だから、周りで、それは止めなさいというけれど、いや、俺は日本人だからこの格好で行く、といってね。外国に行ってから、食事も日本のレストランを探して、味噌汁とご飯をたべていた。彼は日本民族の誇りを持っているよ」と言っておられたのが印象に残っています。

残念なのは、あれほど望んでおられた朝鮮半島の統一を見ることなく逝かれたことです。私としては、統一の偉業は主席の手で成し遂げて欲しかったのです。ご冥福をお祈り申しあげます。

（玲）



高木有為（故高木健夫氏長男）

たかぎ・うい●1933年10月大阪で生まれる。幼児期から小学校まで北京で過ごす。1959年早稲田大学卒業とともに『電通』に入社、1993年に定年退職。1991年５月と1992年４月に金日成主席と接見。



抗日武装闘争時期の金日成主席(中央)

朝鮮現代史に刻まれた卓越した領導

朝鮮の現代史は、国を奪われた亡国の悲哀と抑圧と貧困のなかから、日本帝国主義の植民地支配をくつがえして民族解放をかちとり、人民中心の自主独立国家・チュチェの社会主義国家をきずきあげた栄光にみちた歴史である。この輝かしい歴史は、金日成主席というたぐい稀な領袖の存在と、そのすぐれた指導を抜きにして語ることはできない。

民族解放と自主独立国家の恩人

　一九二〇年代、弱冠一〇代にして新しい青年共産主義者を中核とする革命組織を率いて民族解放闘争の表面に登場した金日成主席は、朝鮮人民の最初の革命武力である朝鮮人民革命軍を創建し、本格的抗日武装闘争を展開した。この抗日武装闘争路線は、いまだ人類が誰一人として経験したことのない、全く新しい民族解放路線であった。植民地国の独立は宗主国の革命勝利によってのみ達成されると規定されていた当時、正規軍も後方支援も皆無のなかで自らの武力をもって宗主国と戦い独立を達成するという主席の独創的な路線は、その最初の一歩からすべてが未知の体験であり、それを独自で解決しなければならなかった。しかし主席は、強靱な意志とすぐれた指導力をもって、血の海、火の海を踏みわけ、横たわる難関を次々に克服していった。


党創建の準備をすすめる主席（党中央組織委員会第３回拡大執行委員会の決定書草案を検討）

　主席はこの民族解放闘争を共産主義者だけでなく、労働者、農民の他、良心的な民族主義者や知識人、宗教家、有産階層をも含めた広範な反日愛国勢力の結集によってなしとげられるとし、全く独自の反日民族統一戦線理論をうちだし、「祖国光復会」に幅広い反日愛国勢力を結集していった。この新しい統一戦線路線は、抗日武装闘争の過程で蓄積された貴重な革命伝統とともに、以後朝鮮の国造りの基礎となり、統一祖国を展望するこんにちもなお貫かれている。こうして主席は、二〇星霜に及んだ苦難の抗日闘争を戦い抜き、朝鮮民族が渇望してやまなかった祖国解放の歴史的偉業をなしとげたのである。

　解放後の朝鮮には、難問が累積し、内外反動の策動で情勢は複雑を極めていた。主席は、こうした情勢下で、愛国勢力の分散をくい止め革命勢力を結集させるため、朝鮮共産党の創建に続き、時を移さず進歩的党派を大同団結させ、勤労大衆の統一的政党である朝鮮労働党を創建することによって、チュチェの革命偉業を推進する強力な前衛部隊を形成した。

　金日成主席は、続いて民族史上初めての労働者、農民の国家樹立に着手した。当時、一部の日和見主義は、ブルジョア共和国樹立か、プロレタリア独裁国家樹立かで混乱を引き起こしていた。しかし主席は断固として、すでに抗日武装闘争の時期に打ち出した独創的な人民革命政府路線に基づき、民主主義の旗のもと、すべての党派と各界各層の人民大衆を民主主義民族統一戦線に結集した、全く新しい形態の人民政権―北朝鮮人民委員会を組織し、ついで南北全人民の自発的投票による（南朝鮮では地下秘密投票）総選挙を実施し、朝鮮民主主義人民共和国の創建を全世界に宣布した（一九四八年九月）。共和国は、その成立過程からして南北人民が自らの意思で選択した唯一合法国家であった。

　主席は、共和国創建に先だち抗日武装闘争で鍛えられた人民革命軍を主力に、朝鮮で初めての正規軍―朝鮮人民軍を建軍した（四八年二月）。この建軍は、そのわずか二年後に勃発した朝鮮戦争で勝利を保証する要となった。

自主・自立・自衛の社会主義強国築く

　アメリカ帝国主義の共和国抹殺の企てによって挑発された朝鮮戦争は世界の戦史にも稀な苛烈極わる総力戦であった。この戦争において金日成主席は、朝鮮人民軍最高司令官として天才的な戦略戦術を駆使し、世界最強を自負する米軍をはじめ一六ヵ国の追随国の侵略軍を撃破して、祖国の自由と独立を護り、世界の平和を守護した。

　戦後、共和国は文字通り廃墟と化した。しかし主席は、人民と国土さえあれば不可能なことはないという信念を抱き、全人民を戦後復興建設へと導き、わずか三年たらずで復興期を終えて自立的民族経済の土台を築きあげた。

　金日成主席は戦後間もない一九五六年人民経済五ヵ年計画を提示、「千里馬（チョンリマ）運動」の展開をアピール、これに応えた「千里馬朝鮮」の建設速度は世界を驚嘆させた。

　主席は、党活動の本質を「人との活動」と規定し、人民の無尽蔵のエネルギーを汲み上げて革命と建設に動員するという卓抜の指導芸術をもって、生産関係の社会主義的改造を短期間で成功させたのに続き、農業協同化、私営商工業の社会主義化を完成させた。これらの改造が、先行社会主義国では大きな混乱をひき起したが、朝鮮ではなんの支障もなく円滑に進められたのは示唆的である。これにともない、主席は六一年に七ヵ年計画を策定してその完遂を指導し、緊迫した国際情勢に即応した経済建設と国防建設並進という独創的な路線を貫徹して、一九七〇年、社会主義工業化実現を内外に宣布した（党第五回大会）。

　社会主義工業化の実現を前後する時期から親愛なる指導者金正日書記の活動が全面的に展開されるようになり、故主席の革命と建設に対する指導は、ますますその輝きを増すようになった。

　一九八〇年一〇月、金日成主席は全社会のチュチェ思想化方針（党第六回大会）をうちだし、以後、革命と建設はさらなる高揚期に入り、思想・文化・技術の三大革命路線に基づいて、共和国は自主・自立・自衛の三大原則を貫く社会主義強国として



精力的な現地指導で社会主義建設をすすめる主席（1976）

大きく発展した。こうして、植民地の奴隷的境遇を自力で打破し、三年に及ぶ祖国解放戦争の試練を克服し、自力更生の革命精神を発揚して社会主義の世界的模範の国となった共和国は、第三世界の諸国の人びとからは憧憬され、資本主義諸国からはその社会主義的原則の故に畏敬される強力な国となり、国家的威信は犯し難いものとなっている。

ソ連及び東欧の社会主義が崩壊した後も、共和国は人民大衆中心の「朝鮮式社会主義」の旗幟を掲げて、独自の道を勝利を重ねながら歩みつづけている。これはすべて、初期革命活動から抗日戦争の時期に始まり、すべてをチュチェ思想に基づき、独自の路線を貫いた政策と、ひたすら祖国と人民のために革命と建設を推進してきた金日成主席の卓越した指導のたまものであることはいうまでもない。

統一実現に生涯ささげる

金日成主席は、旧日本帝国主義の植民地化政策と米軍の南朝鮮占領によってもたらされた祖国の分裂に終止符を打つために生涯を捧げた。

主席は一九四八年四月、南朝鮮の単独選挙強行に反対し南北統一政府を樹立するために「南北朝鮮政党・社会団体代表者連席会議」を平壌（ピョンヤン）で開いて統一への道を示した。また、一九五五年には平和的統一の具体案を提起した。この二つの統一案は統一運動の重要な里程標となった。

祖国統一運動で大きな意義を有する一九七二年七月四日の「南北共同声明」は、自主・平和・民族大団結という統一の三大原則を明確にしたが、これも主席の指導によって発議された原則であった。以後も主席は統一に関する提言を何回となく明らかにしたが、一九八〇年の労働党第六回大会で提案された「高麗民主連邦共和国創立」の方案は、南北の社会制度を相互に認め合って「二政府一国家」という連邦制統一を示したものとしてまさに画期的なものであった。そして、この方案を現実に即して深化させたのが「祖国統一のための全民族大団結一〇大綱領」(九三年四月)である。この一〇大綱領は、平和的・中立的な連邦制統一国家を民族愛と民族自主精神に基づいて樹立するための原則と方途を明示した、心ある朝鮮人ならば誰もが受け入れることのできる公明正大な綱領である。この綱領にしたがって、共和国はもちろん南朝鮮と海外同胞社会において広汎な統一勢力が形成され、五回に及ぶ統一のための汎民族大会が開催された。これをみても、統一は日一日と近づきつつある。

主席は、高貴な生涯を終える瞬間まで、朝米会談の成功と統一のための首脳会談の実現に心血を注いだ。志半ばにして逝去したとはいえ、主席の統一への念願、そしてまたチュチェ偉業完遂の理念は、親愛なる指導者金正日書記によって、必ずや実を結ぶであろう。



黄海南道碧城郡ソハ協同農場のアン・ダルスさんと記念写真を撮る主席(1976)

すばらしい人間愛のドラマ

林　亮勝（日朝文化交流協会理事長・大正大学学長）

（一）

朝鮮民主主義人民共和国は悲しみに震えている。突然、まったく突然、慈父と永別したのである。私にはその慟哭が直に伝わる。ここ二〇年間に何度か共和国を訪れ、多教の知友を得、主席の抗日活動以来の歴史を調べ、とくに、主席と一日を過ごし、この人柄に強く引きつけられているところからくる、私の、国・民族に対する敬愛の念と思いがあるからである。



青山里の農民と膝をまじえて語り合う金日成主席(1958・10)

（二）

一九七五年五月、私は日本朝鮮文化交流協会の高木健夫理事長のお供をして、初めて共和国を訪れた。高木理事長は七一年一〇月から七二年二月にかけて平壌に滞在し、日本の新聞記者として初めて共和国の実情を新聞に連載した。朝鮮民主主義人民共和国の素顔と金日成主席の活動が活写されているこの記事は、大きな反響を呼んだ。

高木氏は日本人の朝鮮理解がほとんど無に等しいことに、いまさらのように愕然とした。そして両国の相互理解の一助としようと考えて、帰国後、日本朝鮮文化交流協会を組織して、自ら理事長となり文化交流事業に当たられたのである。

高木理事長の行動を支えたものの一つは金日成主席に対する敬愛の念であった。主席も理事長に心を許していた。

七五年五月、私は高木理事長に従って主席にお目にかかることができた。

「高木先生は私の友人です。あなたがその弟子ならば、やはり私の友人です。ゆっくりくつろいでください」という言葉で迎えられた。

友愛の情に満ちたお二人の語り合い。理事長の「お疲れになるでしょう」という問いに、「疲れることもあります。そんな時は、学校へ行って子どもたちに会います。その明るい笑顔を見ているうちに疲れが抜けていきます。農村や工場に行って老人や若い人たちに会って話を聞くときも同じ思いがします。みんな私の健康を心配してくれますが、その気持が私の疲れを吹き飛ばしてくれるのです」といわれるのである。

どんな偉大な指導者でも、一人で社会を構築することはできない。指導者は人民を信頼し、人民は指導者を敬慕するという信頼関係がなければこのような言葉は生れてこないのである。

滞在中お世話になった対文協（対外文化連絡協会）のR参事や通訳のKさんは、私が主席にお目にかかれたことを自分のことのように喜んだ。

（三）

「一人はみんなのために、みんなは一人のために」というスローガンは千里馬運動の中で生れ、憲法の条文に定着していくが、この考えと具体的な行動規範は抗日遊撃戦の苦闘の間に芽生えている。「幹部は背のうを背負って第一線に飛び出していけ」と主席はいろいろな所で檄を飛ばしている。

千里馬運動とともに有名な青山里での現地指導でも、幹部の責任感の不足や官僚主義・形式主義を強く非難し、「自分の仕事に精通しようと思えば、大衆と接触しなければならず、大衆の声に耳をかたむけなければなりません。……大衆のなかに入らなければ学ぶことはできません」と強くいっている。

主席は全国を歩き指導し続けた。平壌の西、車で四〇分ほどの所に朝鮮戦争中に金日成総合大学が疎開していたペクソン事蹟地がある。チャ

モ山等小さな山に三方を囲まれた約三万坪の傾斜地である。五二年四月、主席はここを訪れた。一〇〇〇人に近い学生が、「学習も戦闘だ」という主席の考えによって戦場から離れ、ここに集められていた。この時、戦後の国造りについて、夜を徹して主席は学生たちに語る。いまこの地に、「首領にささげるうた」という大きな詩碑が建てられている。

チャモ山脈よ　語れかし
生誕四〇周年に　砲煙を押し
わけて
われらの学びの場を訪れた
父のおおいなる愛を
おまえ栄光の地よ　永く歌え
一晩をわれらとともに明かしな
がら
千年の未来を照らした首領の偉
大な構想

血のたぎる胸に革命の炎は燃え
あがれ
米帝を打ち破り　勝利したこの
地上に
共産主義の祖国を高く建てる
金日成将軍の国を全世界に輝か
そう

このとき主席の話に感激し、奮い立った学生たちが作った詩である。



人民の食生活に深い関心をよせる主席(1974)

私はこの時この場にいた対文協のK副委員長に伴われてペクソンを訪ねたのだが、K副委員長はこの詩を朗唱した。その声は誇りに満ちていた。

　このような詩碑は各地にある。また現地指導の時に主席がどのような細やかな心遣いをして下さったか、という話を、そこにいた人たちから聞いた。

　平壌の北八〇キロほどの所に、大同江の水を、山をくり抜いた四キロのトンネルで導入して作った人造湖・ヨンプン湖がある。この湖が作られたことで不毛の地が沃野となった。これも主席の大きな構想と現地指導の結果生れた。「亀の甲羅のようにひび割れた、やせた原野に、永久に乾くことを知らない生命の水をもたらしたその御方、……ヨルトゥ三千里原がいくら広いといっても、その御方の思い、愛にくらべることはできない」という詩碑が建っている。そして「水路に初めて水が流れたとき、一九歳だった私は服のまま飛び込んで踊り狂った」と語ってくれたのは、この辺りの村の一つ、ナンド村の管理委員長だった。

　平壌の南六〇キロほどの所にある黄海製鉄連合企業所に主席はたびたび行っている。六五年一月には六日間滞在した。その帰路、一四、五歳の女子学生一一人と行き違った。主席は車を止め、学校のこと、健康のことを聞いた。元気そうだが、カルシウムが不足しているようだ、と主席は思う。住所を聞いた主席は、直ぐに彼女らに山人参とにわとりを贈った。

　そのことがあった一五年後の七九年に、私は黄海道で彼女らのうち何人かに会った。教員となったり、企業所の労働者となったりしていた。職場の中核として活躍しているのである。

　それらは、主席と人民との間に繰り広げられた、思いやりの心から生れた人間愛のドラマだといっていい。主席の深い愛情が人民の心に滲み込む。そのことで、主席は人民の心の中で「神に近い存在」となっていったのである。自ら求めてそうなったのではない。その日常行動が朝鮮人民の心のよりどころとなったところから「神格化」されていったのである。

　少年時代からの一五年にわたるパルチザン活動、植民地からの解放、戦後の復興。それらが人民との結び付きの中でおこなわれたのである。それは決して平坦な道ではない。主席が、「私は楽天的な革命家だ」と明るくいわれたのを昨日のように覚えている。

　その主席が動いた。それが緒につこうとした時に、私どもは主席と永別しなければならなくなった。言葉もない。しかし私は、主席の遺志が金正日書記を中心とする残された人びとによって立派に継承されるだろうことを確信している。

　人間を深く信じ、八二年の偉大な生涯を終えられた主席の温顔を思い続け、御冥福をお祈りしている。

インタビュー　金日成主席を偲ぶ

アジアが生んだ偉人

故金日成主席と会見しましたのは三回です。最初にお会いしたのが歴史的な七・四南北共同声明が出された直後のことでした。一九七二年九月に社会党代表団の秘書長として訪朝しました。

錦繍山の主席の執務室で一時間以上にわたって、七・四共同声明の基本になる考え方を話して下さいました。まさに談論風発で、十分に勉強していなかった私たちにとって大変参考になりました。このあと席を移して二時間にもわたって会食しながら話を交わしたのですが、文字通り豪放磊落な気性に、私たち代表団の緊張も解けて、ずいぶん勝手なことも平気で質問したりしたものです。

この時、私は新聞記者の習性からずいぶんぶしつけな質問をしました。それは、朝鮮各地を視察して感じたことだったのですが、行く先々で主席の現地指導の話を聞かされるのです。

例えばダム建設地や果樹園など、何ごとも主席の指導で建設されてうまくいったという人民の声です。そのことと関連して主席に、パルチザン闘争を経て現在までこんなに多忙なのに、専門知識はいつ得られたのかと質問をしたのです。

私の質問に、主席は豪快に笑いながら、それはみな農業や建設の専門家がしたことです、しかし、私はよく現地に出かけて行き確認します、ときちんと答えて下さったのです。

現地に出かけて行って現状を視察し、人民と膝を交えて語りあう中で問題点を解決するという指導に、人民が敬愛と感動を覚えるのでしょう。

主席の現地指導の徹底ぶりは、私の三度の会見の中で平壌でお会いしたのは一度だけで、後は両江道と咸鏡道ということからも伺えます。

私は三度の会見を通して、一度も主席に威圧感を感じたことはありません。威厳があるのに人を包みこむような温かさを備えておられる。お会いすると最初は誰でも緊張しますが、人を逸らさない話術に、五分もすればみんなリラックスして遠慮を忘れて勝手な質問をぶつけているんですね。

一九九一年の七月に日朝議連の代表団で行きましたときにも、ある議員が、金正日書記はなぜ私たちと会って下さらないのかと質問したのです。このときも主席は豪快に笑いながら、それは本人が決めることであり、しかし書記も現地指導に多忙な日々を送っているからと答えてくれました。

この時の代表団は三〇〇人からの大がかりなものでしたが、主席はとても元気で、代表団の全員と一人ひとり握手を交わし、宴会を催してくれました。

私は仕事がら世界の首脳に大勢お目にかかっていますが、あのくらい気持ちよくお話しできる方は少ないですね。これは東洋の文化と歴史を共有する者には理解できると思いますが、一種ただようような温かい雰囲気を持っておられて、こちらが構えないで打ち解けてお話しできるのです。だから遠慮がなくなって何でも聞いて良いんだろうと思わせる。だから皆が勝手なことを遠慮せずに聞いてみるのだと思います。

私が知るかぎり、こうした雰囲気を持った方は、金日成主席と周恩来首相だけですね。このお二人はアジアが生んだ二〇世紀の偉人だと思っています。

（玲）

田　英夫（参議院議員）

でん・ひでお●1923年６月、東京生まれ。71歳。学習院高等科を経て1947年東京大学経済学部卒。共同通信を経て64年にＴＢＳ入社、キャスターとして活躍。71年、参議院全国区に日本社会党から出馬、トップ当選を果たす。国際局長を歴任し、78年社民連結成、代表、常任理事をつとめる。





毛沢東主席と会見する金日成主席（1975・4・18）

世界の自主化をリード

鎌倉孝夫（埼玉大学教授）


ヤセル・アラファト議長に共和国英雄称号を授ける金日成主席（1981・10・11）

いまなお世界の「自主」確立を好まない帝国主義的好戦勢力が、朝鮮半島に戦争の危機をもたらし、南北分断を固定化していることによって、朝鮮の自主的平和統一が未達成の状況で、金日成主席が亡くなられたことは、朝鮮人民にとってばかりか、世界の人民にとってきわめて残念であり、計り知れない損失である。

しかし、金日成主席の理論、思想、指導方法、政策は、朝鮮民衆に深く体得されており、若き指導者金正日書記を中心とした朝鮮労働党の確固とした指導の下に継承され、着実に具体化されていくことは疑いない。

※　※　※

金日成主席は人類の歴史の上に、多くの分野でことばでは容易に表わしえないほどの貢献をされた。そのうちここでは「世界の自主化」の推進に果された成果の一端を記しておきたい。そしてこの点は、ポスト冷戦時代の今日、いよいよその輝きを増している。金日成主席の「世界の自主化」推進に関する理論、思想、政策は、世界の人類の発展方向をさし示すものとなっている。

とり上げるべき第一点は、朝鮮革命の遂行、実現に関してである。主席は、マルクス・レーニン主義から革命理論と戦略を学びながら、これを教条主義的に朝鮮革命にあてはめたのではなく、朝鮮のおかれた国際的地位、朝鮮の具体的実情――経済、社会、文化、大衆の意識状況を含めて――を十分にふまえた上で、反帝国主義・民族解放を通した社会主義革命の路線を進めたのであった。マルクス・レーニン主義の革命理論と原則を基礎におきながら、まさに自主的・創造的に朝鮮革命の方途を明らかにし、実現したのである。「自主」の確立こそ社会発展の基本だという考えは、このような朝鮮革命の経験を通して形成され、確固たるものとなったのである。

第二に、朝鮮式社会主義建設の理論、指針、政策の確立である。この点では①何よりも革命と建設の「自主」的主体形成が第一義におかれている。革命と建設の「自主」的主体は、組織された人民大衆自体である。人民大衆中心の社会主義というところに、ソ連・東欧「社会主義」とは異なる朝鮮式社会主義の特徴――優位性がある。大衆が「自主」的に、つまり自らの欲求として社会主義を求め、指導の中心、指導の中核部隊との組織的一体性の下に、自主的、創造的に社会主義建設を進めるのが、人民大衆中心の朝鮮式社会主義である。

②革命と建設の「自主」的主体形成は、たんに生産力の発展によるだけではおこなわれえない。生産力の発展による物質的生活の維持・向上は社会主義建設の一要件であるが、生産力の発展自体、その担い手である労働者、勤労者の自発性や意欲に基づくものなのである。朝鮮式社会主義においては、生産力の発展＝技術革命の推進だけでなく、同時に思想革命、文化革命の推進を強調する。とくに、思想意識革命の決定的意義が明らかにされた。人民大衆の社会の主人としての意識と力量の確立こそ、社会主義建設の基本である。しかし人々の社会主義的意識は決して生産力の発展によって自然的に形成されるものではない。そこには日々の実践活動に裏打ちされた指導部による教育・啓発活動が不可欠である。金日成主席は、アメリカ帝国主義との激しい戦闘のさなかにあっても教育活動を絶やさず遂行した。そして全人民のインテリ化をめざして教育活動を進めてきたのである。

ソ連・東欧「社会主義」においても、指導政党による大衆への思想教育がそれなりにおこなわれた。しかしそれはいわば上からの一方的な押しつけとなる傾向が強かった。指導部はいわば〝高い思想〟を独占し、しかも実践をふまえてこれを不断に点検、修正することなく、大衆に押

しつけた。金日成主席は、つねに大衆こそ先生であり、大衆から学ばなければならないとされ、そして不断に大衆の中に入り苦楽を共にし大衆が何を求めているかを現実にとらえ、それを通して指導部の思想・政策を見直し、鍛えてきた。このような大衆路線に立つことによって、指導部と大衆の思想がともに鍛えられ、その思想はまさに実生活に即し、根づいた思想として、自主的に大衆に受入れられる、というより大衆自らの信念となりうるのである。

第三に、国際的関係では、金日成主席は社会主義諸国との経済、政治、思想的連帯を重要視しながら、WTOやコメコンに参加せず、非同盟を選んだことである。それは政治における「自主」の確立、経済における自立の確立、防衛における自衛の確立を追求したからである。まさに国際関係において、各国・各民族の「自主」の確立を図ることこそ、ポスト冷戦時代の今日、現実化すべきそしてしうる課題となっているのであるが、主席は冷戦体制の下で早くもこの路線を確立し推進した。政治における「自主」を欠く東欧「社会主義」が、ソ連の崩壊によって挫折してしまったのと異なり、共和国がたしかに厳しい国際関係の中にありながら、揺ぎなく社会主義を堅持していることは、主席の「自主」路線によるものといえよう。

各国、各民族の「自主」性確立は、これを妨げ、他国、他民族に軍事的、政治的、経済的、文化的に干渉、介入する勢力、すなわち帝国主義・軍国主義勢力との対決なしにはおこなわれえない。主席は、社会主義諸国だけではなく、非同盟・発展途上諸国との反帝連帯による「自主」確立を志向した。今日アメリカ軍産複合体やCIAによる共和国「核開発疑惑」が宣伝され、国連による〝制裁〟などの威しがかけられている中で、共和国が毅然としてこれに対抗し、逆にアメリカ政府に核による威しをおこなわないこと、介入・干渉せず朝鮮南北の自主的平和統一を支持することを約束させている。これも、反帝・自主・連帯の共和国「自主」路線の成果である。

主席は、朝鮮南北統一に関して、外勢に依存せず、自主的平和統一を実現する方針を一貫して堅持し、追求してきた。七二年七月四日の統一に関する南北間の合意は、自主的平和統一を民族大団結によって実現しようという主席の方針に南の「政府」も合意したのであった。しかし情勢が自主的平和統一実現の方向に進むと、これを好まない勢力が介入し妨害する。九一年一二月一二日も南北首相間で「南北の和解・不可侵および交流協力」が、「朝鮮半島非核化宣言」とともに合意され、統一に向って進みはじめたが、再び「核疑惑」という邪魔が入る。しかし、相互の政府と体制を認めながら民族大団結で連邦国家を樹立しようという主席の提起された統一方針は、南の民衆にも圧倒的に支持されており、紆余曲折はあろうが確実に実現されていくであろう。

第四に、主席の「自主」推進・確立の方針は、チュチェ思想によって理論的に裏付けされているとともに、「自主」推進の実践がチュチェ思想の正しさを実証していることを指摘しておかなければならない。チュチェ思想の基本は、人間中心に世界をとらえるところにある。そして人間を自主性、創造性、意識性をもった社会的存在ととらえている。とりわけ、自主性こそ人間の本質的生命であるととらえている。「自主」確立の目標は、まさに人間の社会的本性に即した人間を主人とする社会の実現にあるということができる。



ノロドム・シアヌーク国王とともに散歩を楽しむ金日成主席（1979・6・11）



チトー大統領と記念写真をとる金日成主席（1977・8・26）


在日同胞に暖かい配慮をめぐらす金日成主席

在日同胞の太陽

呉 圭 祥（朝鮮大学校教員）

金日成主席の八二年の全生涯は、朝鮮の革命と民族の幸福のためにすべてを捧げた人民の指導者の歴史であり、二〇世紀の朝鮮史は主席の活動と業績を切り離しては何ひとつ考えられない。金日成主席の逝去は、わが民族の最大の悲しみであるばかりでなく、在日同胞の生活と在日朝鮮人運動にとってもはかり知れない損失である。

※ ※ ※

強制連行により、あるいは仕方なく生計の道を求めて日本に居住せざるをえなかった在日朝鮮人は、植民地「亡国奴」といわれ、主権国家を失った民の苦しみを身をもって体験した。彼らに能力も希望も生かされる道はまったくなかった。ただあったのは抑圧と苦痛のみだ。

そんな彼らに、日本帝国主義の植民地時代祖国独立の夢と希望を与え、一九四五年八月一五日に祖国解放の喜びを与えてくれたのはほかでもない金日成主席である。主席は、植民地支配に反対して先頭に立ってたたかった。それゆえ在日同胞は「解放の恩人」「新しい希望の星」と絶賛したのである。ちなみに歴代の南の執権者で祖国の解放と独立のために命をはってたたかった者は皆無である。

祖国解放後、主席は朝鮮人民の進むべき方向性を示し、建党・建国・建軍の方針を策定し、土地改革や重要産業の国有化など民主革命を指導した。これは、在日同胞にも今後の朝鮮革命と民族のゆく末を展望させるうえで大きな意義をもった。

新しい民主朝鮮建設に鼓舞された在日同胞は在日本朝鮮人聯盟(朝聯)を結成し、運動を展開した。とくに主席は、四六年一二月一三日付で「在日一〇〇万同胞に」という公開書簡を送っている。この書簡は、当時の朝鮮内外の情勢を分析し、在日同胞への配慮と運動の課題を示している。また、北朝鮮人民委員会は決定一三九号で「日本から帰国する朝鮮同胞に対する件」(四六年一二月二六日)も制定している。

四八年九月九日、金日成主席の指導のもとでの共和国創建は、在日朝鮮人が主権国家の海外公民となった歴史的できごとである。

主席は、一〇月八日、国際電報を朝聯中央に送り、朝聯の代表を共和国に招へいした。あらゆる困難を乗り越えて、共和国創建在日同胞慶祝団が祖国に到着すると、主席は一二月二三日同代表団を接見し、貴重な談話をおこなった。それは、在日同胞は、共和国の公民としての気概をもつこと、新しい世代に科学技術を練磨させ朝鮮の文字と言葉を体得させること、祖国の統一のために尽くすことなどの内容だった。これがその後の朝聯と在日同胞の運動の指針となったことはいうまでもない。

日・米当局によって朝聯が強制的に解散させられ、在日朝鮮人規制の「二大悪法」といわれる「入管法」と「外登法」が施行され、具体的な弾圧が実行されるなか、在日朝鮮人運動は大きな試練期を迎える。とくに五一年一月に結成した在日朝鮮統一民主戦線(民戦)の一部指導層の事大主義的傾向によって運動は存亡の危機にたたされた。



異国の地で民族的差別と貧困に苦しめられてきた在日同胞に祖国への帰国の道が開かれた。帰国第1船で祖国に帰ってきた在日同胞をむかえる金日成主席(1959・12)



在日本朝鮮人総聯合会の結成大会（1955・5）。主席の路線転換方針によって、存亡の危機にみまわれていた在日朝鮮人運動は祖国の繁栄と統一に寄与する運動としてめざましい発展をとげる

そうしたさなかの五三年一月、在日同胞代表を最高司令部で接見した主席は、試練をなめる在日朝鮮人運動の実状報告を聞いた後、在日朝鮮人運動の方向を明らかにした。これがまさしく、主体的路線転換方針であり、今日の在日本朝鮮人総聯合会（朝鮮総聯）誕生の契機となった方針である。在日同胞は日本に住んでいても祖国のための運動をしなくてはならない、他国の指導を受けるのではなく共和国政府の指導を受けること、そして在日同胞は祖国の統一と自らの民族的権利を守るため主体的力量をもって活動せねばならないというのがその主旨である。

苛酷をきわめた朝鮮戦争の最中であり、当時六〇万にも満たなかった在日同胞のために貴重な時間をさいてくれたばかりか、的確な方針を示した主席は、まさに在日朝鮮人運動の「救世主」であった。

在日同胞の生活と運動において根本的転換点となった五五年五月の朝鮮総聯の結成は、金日成主席が創始した主体的海外僑胞運動思想と在日朝鮮人運動に対する賢明な指導の結実といえよう。

金日成主席は総聯結成当時からその逝去まで一貫して総聯と在日同胞を賢明に指導され、限りなく心あたたまる配慮をめぐらした。

主席の最も大きな配慮は、総聯と在日朝鮮人運動の方向と課題を機会あるごとに明示してくれたことであろう。六〇年から今年まで毎年新年の祝電を送り、祖国を訪問した代表団、訪問団などを接見し、彼らに希望と勇気と確信を与えてくれた。主席は、総聯の活動家、商工人、青年学生、文化人、教員と科学者、スポーツ選手と初級学校の生徒までありとあらゆる階層の在日同胞と直接会い、記念撮影もし、食事もし、貴重な教示まで与えるなど、その配慮には一国の指導者としては例をみないぬくもりがある。

とくに民主主義的民族教育に対する主席の配慮には格別のものがある。

朝鮮戦争停戦直後の五五年九月にすでに、在日同胞子女の教育のために教育援助費と奨学金を送付することを確約し、祖国で工場をひとつふたつ建設できなくとも、必ず送金しなければならないと語った。教育援助費の歴史はこうして始まり、五七年四月から現在まで、一二七回、その総額は四二〇億一二九九万余円に及ぶ。主席の配慮のおかげで民族教育を受け、または日本の大学や研究機関で学問研究に没頭できた人は万人単位である。まさに、それゆえ在日同胞は教育援助費をごく自然に「生命水」と呼んできた。

そればかりではない。在日同胞の共和国への帰国の道を開き、往来の自由を実現させるために主席はあらゆる処置を講じている。また第三国で開催される会議や大会などにも共和国代表として参加するなど、在日同胞が国際舞台でも活躍できるよう配慮している。

金日成主席は、在日同胞の各界代表が国政に参加できるよう最高人民

会議の代議員に選出される機会も与えてくれた。こうして七人の在日同胞が代議員として選出されている。

主席は、在日同胞が共和国の建設と発展のためにおこなった当然の経済的、物質的寄与に対し、逆に大きく評価している。たとえば工場や船舶などにその建造に努力した同胞商工人の名前などを冠して後世に伝わるようにした。

金日成主席は、総聯の活動家や在日同胞の愛国的で民族的な活動について高く評価し、共和国二重労働英雄の称号、金日成勲章、国旗勲章一級など、また、博士や教授などの国家的学位学職と人民教員、人民俳優などの栄誉称号などを与えている。

まさに、金日成主席の尊名と活動を切り離しては今日の誇りある在日朝鮮人運動と衿持と自信にみちた在日同胞は考えられない。このような意味で在日同胞は金日成主席を「慈愛あふれる領袖」「在日同胞の太陽」と敬慕してやまないのである。

在日朝鮮人運動と同胞のために尽くされた主席の業績と配慮は、在日同胞の心のなかに永遠に残るであろう。

在日同胞は今日の深い悲しみと涙を強い意志と覚悟で乗り超え、金正日書記の指導のもとに今後とも共和国の海外公民として、主体的な同胞活動をいっそう力強く推進して行くであろう。



在日同胞学生と記念写真を撮る主席



主席の配慮で送られてきた教育援助費と奨学金で、在日同胞は幼稚園から大学までの教育体系を整え祖国の明日を担う人材を育成している。写真は朝鮮大学校

人間味と存在感溢れる超人

わたしの接した金日成主席は人間味と存在感溢れる超人でした。

威圧感ではなく、そこにその人がいるという存在感を感じさせるというのはすごいことです。

しかも豊かな人間味まで感じさせる。そこがおそらくいろんな人をひきつけてきた魅力でしょう。

大きな包容力、人を拒絶するのではなく中へ包み入れてしまうような存在感、他に例のないパーソナリティーです。

わたしがお会いした時は七九歳の時ですが、年齢の隔たりを感じさせない自然体なんです。握手しながら「よくいらっしゃいました」との言葉も、普通の口調でありながら遠来の外国人を暖かく迎えた主人という気持ちが十分に伝わってくるものでした。

相手に尊大さとか威厳みたいなものを感じさせたり、萎縮させるところが全くないのです。

お会いした九〇分間、食事をするのももどかしく、こちらから色々聞こうとするんですが、それを先に察知し、あらゆることをお話になった。

はっきりいって食べる口、お酒を飲む口、話す口が三つ別々にあると思うくらいでした。

功なり名を遂げ、子や孫がいて家庭にも恵まれている。それを主席は問わず語りに表現された。また七五歳まで楽しんでいたテニスを医者に止められ、最近は「これをやっています」と手でペダルを踏む仕草をされたんです。室内自転車で軽い運動をやってダイエットをしているということなんですね。

主席は色んなことを食べ物の話になぞらえて、ユーモアと機知に富んだ表現で話される。その話し方の率直さ、あらかじめ用意された言葉ではなく、どこにも飾りっ気がないのです。

「一方が他方を呑み込んだり呑み込まれたりするのではない統一」という風にいつもおっしゃいますね。実に表現が豊かでわかりやすい。こなれている話術なんです。

主席の非常に大きな業績は、一つは中・ソのいずれにも大きく依存せず、その中間で自主性を守り通したということです。いわば朝鮮のアイデンティティーを完全に維持したということです。

ソ連からみても中国からみても一目置かざるを得ない国だったということでしょう。

アメリカに、朝鮮はソ連の衛星国ではない独立自主の国家であること、アメリカの朝鮮政策に大きな誤解があることを認識させた。また苛酷な反共の包囲網の中で、二二〇〇万の国家を今日まで存在させたということです。

もう一つは、指導部を若手の世代に移行させたことです。二〇年間、新旧政権を並立させて安定させて行くというのは、朝鮮式指導部交代のシステムです。最初から安定性が保障されている指導部、それがうまくいっているとわたしは思います。

「朝鮮革命の完結」を頭に描いていた主席は朝鮮統一、資本主義国との融和的共存体制の確立といった残された大きな課題を成し遂げるには、まだまだ多くの時間と努力が必要だと感じておられたと思います。

当然、次世代の指導部に委ねなければならないし、戦後世代を中心とした革命の完結期の指導部を想定していたのは間違いないでしょう。

金主席は、民族の民族による、民族のための国家、素朴でささやかだが、末端まで配慮された「手造り国家」建設のため、生涯を賭けて取り組んでこられた。

アメリカとの関係が休戦状態という、いつまた火蓋が切られてもおかしくない緊張の日々のもとでこんにちまで生き抜いてこれたのは信念の国家、理念を持つ国家だからできたことです。そういう苦難の時代を引っ張ってきた金日成主席の業績は今後、ますます重いものとなるでしょう。

これからは金正日書記の強力な指導のもと、金日成主席の遺志が生かされてゆくと思います。（成）

前田康博（北九州大学教授）

まえだ・やすひろ●1936年大阪府生まれ。62年同志社大学経済学部卒。同年毎日新聞東京本社入社、同編集局外信部記者（アジア・朝鮮問題担当）、ソウル支局長（常駐特派員）、編集委員を経て92年7月退社。朝鮮半島、中国を含むアジア・欧米など40ヵ国を取材、訪問。93年4月までに8度訪朝。91年9月11日、金日成主席との単独会見。著書に「ソウルからの報告」「朝鮮半島の十年の斬跡」「88朝鮮半島を読む」「大転換期の朝鮮半島」など。近刊「どこへ行く朝鮮半島」（8月予定）「米日韓同盟と北朝鮮」（9月予定）。





朝鮮人民軍創建60周年慶祝パレードで群衆の歓呼に応える金正日書記（一九九二）

金正日書記の周りに一心団結し主席の革命偉業の完成へ

金日成主席は逝った。偉大な領袖を亡くした朝鮮人民の悲しみには計り知れないものがある。しかし朝鮮人民は、悲観はしていない。朝鮮革命の陣頭に党と人民の卓越した指導者である金正日書記がしっかりと立っているからである。

金正日書記は、抗日の若き指導者金日成将軍を父に、抗日女性英雄金正淑女史を母に、その長男として一九四二年二月一六日に生まれた。

書記は幼少の頃より非凡の才能を有し、成長の過程で主席の思想・理論、人民性と指導方法に学び、金日成総合大学政治経済学部卒業（一九六四年）後は党の中央機関で働くようになった。

一九七三年九月と七四年二月に開かれた党中央委員会総会で、党中央委員会書記、党中央委員会政治委員に選出され、主席を補佐するかたわら国政全般を見るようになった。

書記の政治指導力と指導者としての権威は日を追って高まり、さらには社会主義建設の各分野で蓄積された多大の業績によって、人民の中でいつしか「親愛なる指導者同志」と、親しみの込もった尊称で呼ばれるようになった。



正日峰

金正日書記は卓越した思想・理論家として知られる。書記の思想・理論分野での特筆すべき業績は、金日成主席の革命思想を「金日成主義」として定式化（一九七四年）したことである。これは、ひとえに革命の後継者のみが成しえることである。

書記はその後も「チュチェ思想について」（八二年三月）、「チュチェ哲学の理解で提起される若干の問題について」（七四年四月）、「金日成主義の独創性を正しく認識するために」（七六年一〇月）等をはじめ数多くの労作で、金日成主義の内容を全面的に体系化し、新たな原理で断えず深化・発展させた。近年では、東欧・ソ連の社会主義の崩壊、東西ドイツの統一という激動する国際情勢を踏まえて「社会主義建設の歴史的教訓とわが党の総路線」（九一年一月）、「革命的党建設の根本問題について」（九一年一〇月）、「社会主義への誹謗は許されない」（九三年三月）等の労作を矢継ぎ早に発表して、社会主義の再建と自主化をめざす世界の革命的党と人民に明確な戦略戦術を提示した。

九二年四月に世界七〇余ヵ国の社会主義・共産主義政党の党員、代表が平壌に集まって「平壌宣言」を採択した。これによって、社会主義・共産主義をめざす方向が定まり、国際的連帯も強化された。この歴史的な「平壌宣言」の採択にも書記の思想・理論的な寄与が絶大であったのである。こうして書記は、朝鮮ばかりでなく、反帝自主をめざす世界人民のリーダーとしても尊敬されるに至った。

金正日書記は思想・理論家としてだけでなく、偉大な政治家としても知られる。書記の政治の基本的特徴は、愛と信頼の政治だという点にある。この愛と信頼を根本原理とする書記の政治は、人民大衆中心の世界観であるチュチェ思想にもとづいており、主席が生涯の座右銘とした「以民為天」の思想を忠実に継承したものである。こうした書記の政治によって今日、共和国では全社会が「一人は全体のために、全体は一人のために」という集団主義原則に従って固く結ばれており、互いに助け合う共産主義的美風が全国に満ち満ちている。

金日成主席は民族至上の課題である祖国統一とチュチェの革命偉業の完成を見ることなく、惜しくも逝去された。主席の未完の偉業は書記に継承された。

指導者を中心とする人民大衆の一心団結はすべての勝利の鍵である。朝鮮人民は主席が生前に果たせなかった革命偉業を完遂するためにも、今後とも革命の偉大な後継者である英明なる指導者金正日書記の周りに固く団結して祖国の統一と人類の理想である社会主義・共産主義へ向って力強く邁進するであろう。



大城山革命烈士陵を視察する金日成主席と金正日書記（1985・10・4）



「われわれが白頭の密林で開拓した革命偉業はまだ終わっていません。われわれはこれからも、革命の遠い道をいかねばなりません。チュチェの革命偉業を代を継いで継承、完成させるためには、文武忠孝を兼ね備え、革命と建設を勝利に導いている金正日同志をよく支えなければなりません。……私は同志たちが、いままで私を支えて革命の道を力強く歩んできたように、これからも一片丹心金正日同志を忠誠をもって支え、社会主義建設と祖国統一のために力強くたたかうであろうことを固く信じます」

金日成

朝鮮画報
通巻三九六号
一九六二年九月二六日第三種郵便物認可
一九九四年九月一日発行（毎月一回・五日発行）
●編集・発行　朝鮮画報社　〒112 東京都文京区白山4—33—14
TEL 03（3813）7521（代）
FAX 03（3813）7524
振替口座　東京2—41068番
定価　四八〇円（税込）
（送料九二円）



印刷　大日本印刷株式会社